Endeavor

Na01 mini

ユーザーズマニュアル

Windows XP

本機でできること

本機は10.2型の液晶ディスプレイを搭載したノート型コンピュータです。

本機では、主に次のようなことができます。

ネットワークに接続する p.65

無線LANを使う p.69

インターネットやメールを利用する p.84

インターネット使用時のセキュリティ対策 p.87

音声の入力・出力をする p.61

画面表示を調節する p.51

外付けディスプレイに表示する p.55

USB機器を接続して使う p.45

メモリカードを使う p.47

省電力機能を使う p.94

インフォメーションメニューを使う p.23

システム診断ツールを使う p.159

目　次

BIOSの設定

ソフトウェアの再インストール

こんなときは

付録

ご使用の前に

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

コンピュータ（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。
特に指定のない限り、注意事項は、本体およびACアダプタやバッテリパックなどの同梱品に適用されます。

温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。

不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。

LCD画面の表面を先の尖ったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因となります。
また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。

本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。

本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。

電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。

本機を長期間使わないときは、バッテリパックを本機に装着したままにしないでください。
液漏れを起こすことがあります。

ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因となります。

本機の上に重い物を載せたり、強く押さえ付けたりしないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。

アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

ほかの機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。

本機を落としたり、ぶつけたりして、衝撃を与えないでください。持ち運ぶときは、電源を切り、バッグに入れるなどして衝撃から守るようにしてください。

ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。

ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破損しないでください。

本機のLCDユニット（液晶ディスプレイ部）を開けた状態で、LCDユニットを持って移動しないでください。

キーボードの上などに、物（ボールペンなど）をはさんだまま、LCDユニット（液晶ディスプレイ部）を閉じないでください。

▶記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

<記録メディアの種類>

FD	FD
CD	光ディスクメディア
MC	メモリカード

記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。

直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。

アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

上に物を載せないでください。

使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。

キズを付けないでください。

ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。

クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。

FD MC

何度も読み書きしたFDは使わないでください。
摩耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

CD

光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD

シールを貼らないでください。

CD

アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

FD MC

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD MC

信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD

信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD

レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。

CD

温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

CD

無線LAN使用時における
セキュリティに関する注意

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線LANを使用する前に、必ずお読みください。

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。
無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルに従って行ってください。
なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティ対策を施さず、または、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。
当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。

参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。

『　』

本書とは別のマニュアルを示します。
例)『サポート・サービスのご案内』: 本機に添付の『サポート・サービスのご案内』を示します。

参照先を示します。

1 2

操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

[Ctrl]

[　] で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。
[↵] はEnterキーを表します。また、[N] は [N み] のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

[Ctrl]+[Z]

＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。
この例では、[Ctrl] を押したまま [Z] を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SDメモリーカードの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition

HDD容量の記述

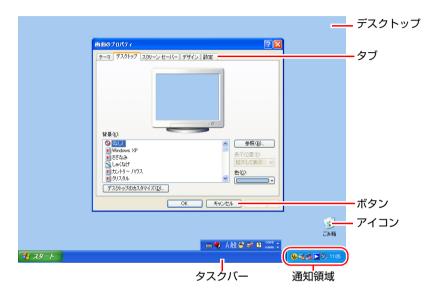
本書では、HDD容量を1GB（ギガバイト）＝1000MBとして記載しています。

メモリ容量の記述

本書では、メモリ容量を1GB（ギガバイト）＝1024MBとして記載しています。

Windowsの画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windows XPの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

ボタン

ボタンは［　］で囲んで記載します。

例）［スタート］：［スタート］／［OK］：［OK］

画面操作

本書では、Windows XPの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

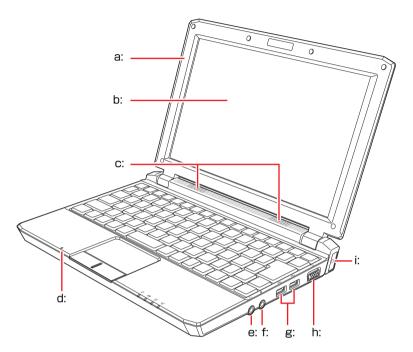
● 記載例

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Internet Explorer」をクリックします。

● 実際の操作

(1) ［スタート］をクリックします。
(2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
(3) 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。

各部の名称と働き

▶正面・右側面

a: LCDユニット
LCD画面を含めたカバー部分です。

b: LCD画面
入力した文字や、作業内容を表示します。

c: 内蔵ステレオスピーカ
警告音（ビープ音）や音声などを鳴らします。

d: 内蔵マイク
音声をコンピュータに取り込みます。

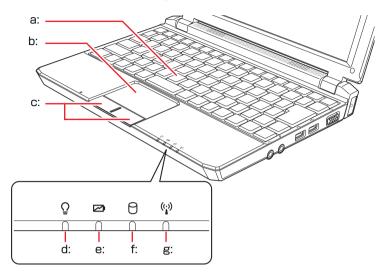
e: ヘッドフォン出力コネクタ
スピーカやヘッドフォンなどを接続します。

f: マイク入力コネクタ
マイクを接続します。

g: USBコネクタ
USB対応機器を接続します。

h: VGAコネクタ
外付けディスプレイ（アナログタイプ）を接続します。

i: 電源スイッチ
本機の電源の入/切を行います。また、スタンバイや休止状態からの復帰にも使用します。
電源を入れると、マーク部が赤く点灯します。

キーボード／タッチパッド／ステータス表示ランプ

a: キーボード
　文字の入力やソフトウェアの操作などを行います。

b: タッチパッド
　指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポインタを操作します。

c: クリックボタン
　マウスの左右ボタンに相当します。

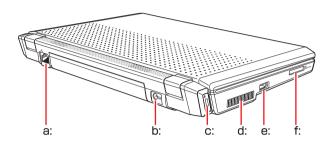
d: 電源ランプ
　電源状態を示します。
　緑点灯：通常
　緑点滅：スタンバイ
　消　灯：電源切断時または休止状態

e: バッテリ充電ランプ
　バッテリの充電状態を示します。
　オレンジ色点灯：充電中
　消　灯：満充電

f: HDDアクセスランプ
　HDDアクセス中に点灯・点滅します。

g: 無線LAN状態ランプ
　無線LANのON/OFF状態を示します。

アクセスランプが点灯・点滅しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

背面・左側面

a: LANコネクタ
ネットワークと接続します。

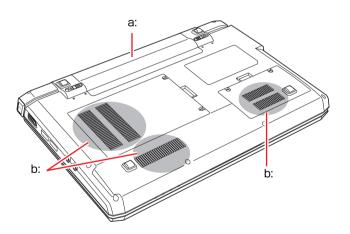
b: ACアダプタコネクタ DCIN
付属のACアダプタを接続します。

c: セキュリティロックスロット
市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。

d: 通風孔
コンピュータ内部で発生する熱を逃がします。

e: USBコネクタ
USB対応機器を接続します。

f: メモリカードスロット MMC.SD.MS/PRO
メモリカードの読み込みや書き込みなどを行います。

底面

a: バッテリパック
着脱可能な充電式の電池です。

b: 通風孔
コンピュータ内部に外気を取り入れます。

添付されているソフトウェア

購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールするソフトウェアは次のとおりです。

本機にインストールされているソフトウェア

購入時、次のソフトウェアは、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● Windows XP 本機のオペレーティングシステム（OS）です。	Windows XPリカバリCD
● チップセットドライバ マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバです。	ドライバCD
● ビデオドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。	
● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	
● タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのドライバです。	
● ネットワークドライバ ネットワーク機能（有線LAN）を使用するためのドライバです。	
● 無線LANドライバ 無線LANを使用するためのドライバです。	
● メモリカードドライバ メモリカードスロットを使用するためのドライバです。	
● インスタントキードライバ Fn と組み合わせて使用する機能キーを使用するためのドライバです。	
● インスタントキーユーティリティ インスタントキーを使用するためのユーティリティです。	
● ネットワーク切替えツール V2 ネットワークの設定を切り替えるためのユーティリティです。	
● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	
● インフォメーションメニュー トラブル時の解決方法やサポートページを閲覧するためのユーティリティです。	
● Microsoft .NET Framework .NET Frameworkの開発環境で作成されたソフトウェアなどを使用するためのプログラムです。	
● Windows Media Player 11 動画や音声を再生するためのソフトウェアです。	
● Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
● システム診断ツール コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。	

必要に応じてインストールするソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。購入後のWindowsセットアップ時に表示される「初期設定ツール」を利用してインストールできます。「初期設定ツール」でインストールしない場合は、必要に応じて外付け光ディスクドライブを接続しインストールしてください。

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺対策機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。	ドライバCD
● i−フィルター 5　30 日版 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを防止するWebフィルタリングソフトウェアです。	
● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版 Webサイトの安全性評価を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツールです。	
● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。	
● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。	

そのほかのソフトウェア

次のソフトウェアは、インストールの必要はありません。外付け光ディスクドライブを接続して、CDから起動して実行します。

p.159 「システム診断ツールを使う」

そのほかのソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● システム診断ツール コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。	ドライバCD

第1章
コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、メモリカードの使用方法など、本機の基本的な操作方法について説明します。

電源の入れ方・切り方

ここでは、電源の入れ方や切り方について説明します。

▶電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

1　電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。

電源ランプ（💡）が点灯します。
点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認してください。

2　黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

電源を入れる際の注意

本機の電源を入れる際は、次の点に注意してください。

- **電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる**

  Windowsが省電力状態に移行すると、本機が動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意してください。

  p.94「省電力機能を使う」

● 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れる
電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

● 周辺機器の電源をいつ入れるか確認する
本機よりも先に電源を入れるか後に入れるかは、周辺機器によって異なります。周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。

● USBフラッシュメモリやUSB HDDなどのUSB記憶装置を接続した状態で電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB記憶装置を取り外した状態で行い、Windows起動後に接続してください。
● USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
p.113「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

Windowsの終了と電源の切り方

● 電源を切って、もう一度入れる場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
● アクセスランプ点灯・点滅中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
● 本機は、電源を切っていても、バッテリパックが装着されていたり、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを取り外してください。

電源を切るときは、必ずWindowsを終了させてから電源を切ります。

1 ［スタート］－［終了オプション］をクリックします。

2 「コンピュータの電源を切る」画面で［電源を切る］をクリックします。
Windowsが終了し、自動的に電源が切れます。

3 接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している状態でWindowsを終了しようとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてから、Windowsを終了してください。

▶再起動

電源が入っている状態で、コンピュータを起動しなおすことを「再起動」と言います。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は次のとおりです。

1　**［スタート］－「終了オプション」－「再起動」をクリックします。**

次のような場合には、Windowsを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れなおしてみてください。

▶ハングアップしたときは

ソフトウェアやWindowsがキーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態をハングアップと言います。
ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

1　**Ctrl＋Alt＋Deleteを押し、「Windows タスクマネージャ」を起動します。**

2　**「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して［タスクの終了］をクリックします。**

3　**「プログラムの終了」画面が表示されたら、［すぐに終了］をクリックします。**

強制的に電源を切る

Ctrl＋Alt＋Deleteを押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。
強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

1　**本機の電源スイッチ（⏻）を5秒以上押し続けます。**

本機の電源が切れます。

Windows使用時の確認事項

Windowsご使用の前に次の事項を確認してください。

▶Windows XPの使用方法

Windows XPの使用方法は、次をご覧ください。

● Windowsのヘルプ

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

［スタート］－「ヘルプとサポート」

● PCお役立ち情報

「PCお役立ち情報」は「インフォメーションメニュー」から開きます。

p.23 「インフォメーションメニューを使う」

セキュリティ対策を行う

本機には、コンピュータを外部と接続することで高まる危険から、本機を守るためのセキュリティ機能が搭載されています。
インターネットに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。
p.87「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

インフォメーションメニューを使う

本機には、トラブル時の情報を見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

「インフォメーションメニュー」の起動方法は次のとおりです。

- デスクトップ上の「インフォメーションメニュー」アイコンをダブルクリックする

- Fn ＋ F4 （　）を押す
- スタートメニューから起動する

「インフォメーションメニュー」が起動すると次の画面が表示されます。

インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューの各項目の内容は次のとおりです。

● ユーザーサポートページ（Web）

技術的な情報、トラブルの解決方法や保証サービスのご案内などを掲載しています。マニュアルやドライバ、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。
「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

● サポート情報検索（Web）

「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。「とらぶる解決ナビ」で本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。
「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

● トラブルが解決しなかったら

技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先を掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。

● PCお役立ち情報

コンピュータに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

● とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

p.140 「トラブルが発生したら」

▶復元ポイントを作成する

Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくと、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた「復元ポイント」までシステムの状態を戻すことができます。
通常、「復元ポイント」はソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

p.162 「復元ポイントを手動で作成する」

▶画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。

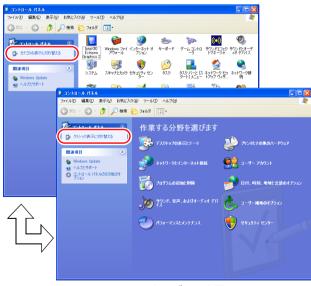
p.99「省電力状態から復帰する」

▶コントロールパネルの表示

コントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

- 「カテゴリの表示」：項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定）。
- 「クラシック表示」：項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示に切り替える」、「カテゴリの表示に切り替える」をクリックして行います。
本書では、「カテゴリの表示」形式を前提に記載しています。

＜クラシック表示＞

＜カテゴリの表示＞

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリパックで使用することができます。
バッテリパック（以降、バッテリ）は着脱可能な充電式の電池です。バッテリをセットすれば、電源コンセントのない場所や停電時にも、本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン（Li-ion）バッテリを使用しています。

バッテリの種類

本機で使用できるバッテリは、次のとおりです。

- 標準バッテリ（BT2202-B）

交換用のバッテリを購入される場合は、当社ホームページの「オプション」から本機のバッテリを選択してください。
当社ホームページのアドレスは、次のとおりです。

http://shop.epson.jp/

バッテリの交換方法は、p.32 「バッテリの交換」をご覧ください。

▶使用時の注意

- バッテリを、指定以外の方法で充電しないでください。
  発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。
- 本体や付属のバッテリなどを火中に入れたり、火気に近づけたり、加熱したり、高温状態で放置したりしないでください。破裂などで火傷の原因となります。
- バッテリの金属端子をショートさせたり、水、コーヒー、ジュースなどの液体でぬらさないでください。感電・火災・火傷の原因となります。
- 付属のACアダプタやバッテリを、分解・改造しないでください。
  また、本機には、指定以外のACアダプタやバッテリを使用しないでください。
  感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。
  当社指定以外のACアダプタやバッテリ、または分解・改造したACアダプタやバッテリ（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。
- 小さなお子様の手の届く所にバッテリを保管しないでください。
  なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリには、落下させる、ぶつける、先の尖ったもので力を加える、強い圧力を加えるなど、強い衝撃を与えないでください。
  破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。
- バッテリ駆動時間が極端に短くなった場合は、当社指定の新しいバッテリと交換してください。
  駆動時間が短くなったバッテリは、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリをそのまま使用し続けると、発熱・発火・破裂の原因となります。

- 付属のACアダプタやバッテリは本機以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプタやバッテリを使用しないでください。
  火傷・火災の危険があります。
  万一、本機の落下などで強い振動や衝撃が加わり、バッテリが破損したり、変形したりした場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリを取り外してください。
  そのまま使用を続けると、発熱・発火・破裂のおそれがあります。
- ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリの熱で本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
- ACアダプタの温度の高い部分に、長時間触れないでください。低温火傷の原因となります。

ACアダプタやバッテリは、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

● ACアダプタを使用するとき

- 停電などでACアダプタからの電源供給が途切れた場合に作業中のデータが消えるのを防ぐため、ACアダプタを接続して使用するときも、バッテリを装着することをおすすめします。
- ACアダプタを長時間接続して使用すると、ACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。
- ACアダプタは頻繁に抜き差ししないでください。

● バッテリを取り付けて使用するとき

- 省電力状態のまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気を付けてください。省電力状態でも電力が消費されています。
  p.94 「省電力機能を使う」
- バッテリだけで使用しているときに、動画再生時にコマ落ちしたり、ソフトウェアの動作が遅くなったりする可能性があります。このような場合には、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.97 「時間経過で移行させない」

● バッテリを長期間使用しないとき

- 長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリだけで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリを長期間充電しないと、過放電になる可能性があります。予防のために定期的に充電をしてください。
  p.34 「バッテリ保管上の注意」

低温環境でのバッテリ性能
低温の環境では、バッテリの性能が低下します。これは一時的なものであり、常温の環境に戻すと性能が回復します。

▶バッテリの使用可能時間

バッテリだけで本機を使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

使用可能時間＊（満充電の場合）：連続約3.2時間
＊JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法Ver1.0に基づいています。

本機をバッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力の設定を行うと使用可能時間を延ばすことができます。
p.94 「省電力機能を使う」

▶バッテリの充電

バッテリの充電は、ACアダプタが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に行われます。

バッテリの充電は、必ず動作環境（10 ～ 35 ℃）で行ってください。動作環境（10 ～ 35 ℃）以外では、正常に充電されません。

バッテリ充電ランプの表示

ACアダプタ接続時のバッテリ充電ランプ（）の表示は、次のとおりです。

充電状態	ランプの表示
充電中	点灯（オレンジ色）
満充電	消灯
残量少	点滅（オレンジ色）

充電時間

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

コンピュータの動作状態	バッテリの充電時間＊
電源が入っている状態	約4.0時間
電源OFF時	約3.7時間

＊電源が入っている状態では、コンピュータの使用状況により差があります。

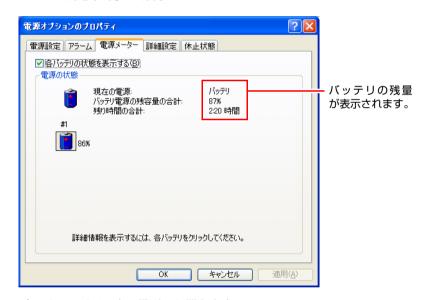
▶バッテリ残量の確認

本機をバッテリだけで使用している場合、次の方法でバッテリ残量を確認することができます。

● 通知領域の「バッテリ」アイコンの上にマウスポインタをあわせる

バッテリアイコン

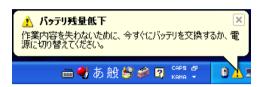
● プロパティ画面を開いて確認する

バッテリの残量が表示されます。

プロパティ画面は次の場所から開きます。

［スタート］ー「コントロールパネル」ー「パフォーマンスとメンテナンス」ー「電源オプション」ー「電源メーター」タブ

バッテリ残量が少なくなったら

バッテリ残量低下の通知

バッテリ残量が少なくなると、本機は次のように通知（警告）します。

バッテリ残量低下を通知する設定は、p.31「バッテリアラームの設定」で変更することができます。
バッテリ残量がさらに低下すると、バッテリ充電ランプが点滅します。

対処方法

バッテリ残量低下が通知されたら、直ちに次のどちらかの処置を行ってください。完全放電してシャットダウン（電源切断）してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

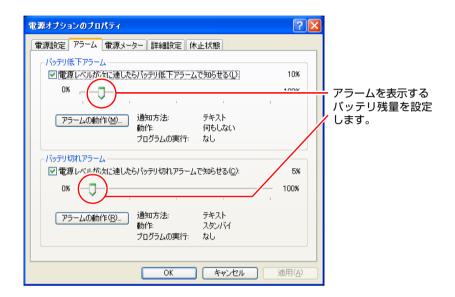
● ACアダプタを接続する
電源を入れたままACアダプタを接続します。

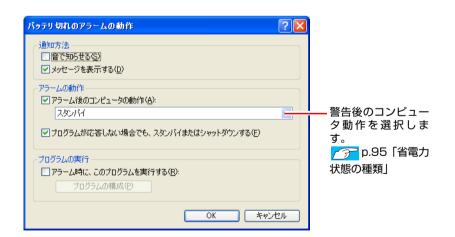
● 電源を切る
作業中のデータをHDDなどに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。
バッテリを交換するときも、必ず電源を切ってから行ってください。

ACアダプタを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリアラームの設定

バッテリ残量が低下したときの通知方法は、次のプロパティ画面から変更できます。

[スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「アラーム」タブ

[アラームの動作] をクリックすると、下記の画面が表示されます。バッテリ低下やバッテリ切れのアラームの動作を設定できます。

p.95「省電力状態の種類」

バッテリの容量がすぐに低下するときは

バッテリは、消耗品です。満充電にしても、バッテリ容量がすぐに低下する場合は、バッテリの寿命が考えられます。また、バッテリの駆動時間が極端に短くなった場合は、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリをそのまま使用し続けると、発熱、発火、破裂の原因となります。本機専用の新しいバッテリに交換してください。

バッテリの交換

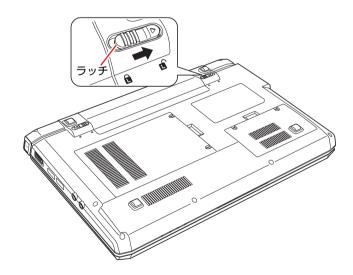
複数のバッテリを交互に使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。
交換用のバッテリについては、当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。
http://shop.epson.jp/

バッテリの交換方法

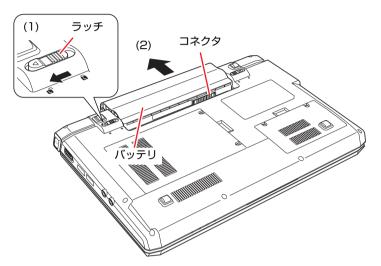
バッテリの交換方法は次のとおりです。

1 **本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。**

2 **本機の底面部を上にして置きます。**

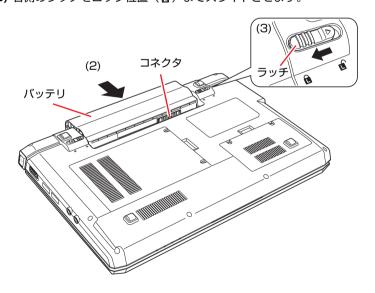
3 **右側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせます。**

4 **バッテリを取り外します。**

(1) 左側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせ、指で押さえてロック解除位置で固定します。

(2) バッテリを矢印の方向に押し出して取り外します。

5 **新しいバッテリを本機に取り付けます。**

(1) 下図のとおりバッテリを本機にあわせます。

(2) バッテリを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。

(3) 右側のラッチをロック位置（🔒）までスライドさせます。

▶バッテリの寿命を延ばすには

バッテリは消耗品です。バッテリの寿命は、使い方や使用環境によって大きく変わります。
バッテリの劣化を抑え、使用可能時間や寿命を延ばすため、次の事項に注意してください。

- 高温の環境では、バッテリの劣化が早まります。本機やバッテリを、炎天下の自動車の中や暖房機の近くなどで使用したり、放置したりしないでください。
- 本機を使用する、使用しないにかかわらず、常時ACアダプタを接続していると、バッテリの劣化が早まります。1ヶ月に1回程度は本機からACアダプタを外して、バッテリの残量が10%程度になるまで使用することをおすすめします。
- 1ヶ月以上本機を使用しないときは、本機からバッテリを取り外して保管してください。
  p.34 「バッテリ保管上の注意」

▶バッテリ保管上の注意

小さなお子様の手の届く所にバッテリを保管しないでください。
なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。

バッテリを保管するときは、次の事項を守ってください。

- 液漏れや端子部の腐食を防ぐため、必ずコンピュータ本体から取り外してください。
- 端子部のショートを防ぐため、布やビニールなどの絶縁物に包んでください。
- 高温環境での保管は劣化を早めます。乾燥した冷暗所で保管してください。
- 満充電状態での保管は劣化を早めます。バッテリ残量は50%程度にして保管してください。
- バッテリは、使用していなくても、自己放電により蓄えられた電気は徐々になくなります。バッテリの残量がなくなり過放電状態になると、コンピュータに装着しても充電できなくなることがあります。
  自己放電による過放電を防ぐため、定期的（半年に1回程度）にバッテリ残量を50%程度まで充電することをおすすめします。

▶使用済みバッテリの取り扱い

使用済みのリチウムイオン（Li-ion）バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、ショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れて、リサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。
バッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

タッチパッドを使う

本機には、タッチパッドが搭載されています。タッチパッドは、マウスと同じようにポインタなどを操作したりクリックしたりするための装置です。

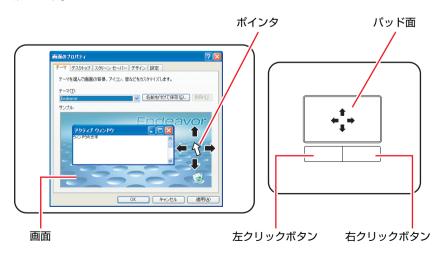
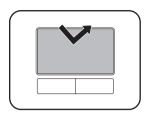
タッチパッドの操作

タッチパッド使用時の注意

タッチパッドを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1 本の指で操作してください。一度に 2 本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。
- 電源を入れたまま LCD ユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。

ポインタの移動

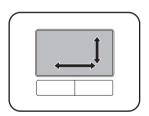
タッチパッドは、パッド面とクリックボタンから構成されています。人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。

クリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く1回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。

ダブルクリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く2回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。

ドラッグアンドドロップ

ポインタを画面上の対象にあわせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。

スクロール

上下のスクロールは、パッドの右端に指を触れて前後に動かします。左右のスクロールは、パッドの下部に指を触れて左右に動かします。

▶タッチパッド機能をOFFにする

本機では、タッチパッドの機能をOFFにすることができます。
キーボード入力を行うときに、手がタッチパッドにあたってマウスポインタが動いてしまい、入力がしにくい場合があります。このような場合は、タッチパッド機能を一時的にOFFにすると便利です。
タッチパッド機能のON/OFFの切り替えは、次のキー操作で行います。

Fn ＋ F9（⊟/×）

タッチパッドユーティリティを使う

タッチパッドユーティリティで各種設定を行うと、タッチパッドがより操作しやすくなります。
タッチパッドユーティリティ画面の表示方法は次のとおりです。

1 **通知領域の「ポインティングデバイス」アイコンをクリックして、「ポインティングデバイスのプロパティ」を選択します。**

<ポインティングデバイスアイコン>

2 **「マウスのプロパティ」画面が表示されたら、「デバイス設定」タブー［設定］をクリックします。**

3 **「デバイス設定：Synaptics TouchPad...」画面が表示されたら、各種設定を行います。**

「アイテムの選択」から設定したい項目を選択して、各種設定を行います。

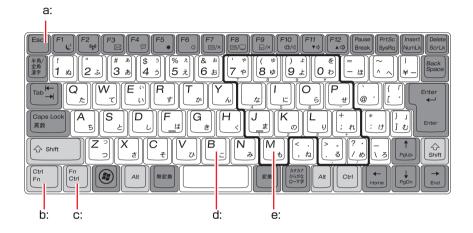
USBマウス（オプション）の接続

本機右側面または左側面のUSBコネクタ（●⊂±）に、USBマウス（オプション）を接続して使うことができます。USBマウスの使用方法は、マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

キーボードを使う

本機には、日本語対応86キーボードが搭載されています。

キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

a: **機能キー**

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

b: **制御キー**

文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

c: **Fnキー**

Fn は制御キーの1つで、キートップ（キーの上面）に青色で印字されている機能キーと組み合わせて使用します。

p.42「Fnキーと組み合わせて使うキー」

d: **文字キー**

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して、漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: **数値キー**

文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字、演算子などを入力します。Fn ＋ NumLk を押すと数値キーと文字キーが切り替わります。

参考

Ctrl/Fn 、Fn/Ctrl の初期状態

キーボード左下側の2つの制御キーは、購入時、キー上部に印字されている文字（Ctrl 、Fn ）に設定されています。
この2つのキーは、機能を入れ替えることができます。

p.43「入力キーの機能変更」

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字されている文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

<table>
<tr><td colspan="2">直接入力モード</td><td>キートップのアルファベットをそのまま入力します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">日本語入力モード</td><td>ローマ字入力</td><td>キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。</td></tr>
<tr><td>かな入力</td><td>キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。</td></tr>
</table>

入力モードの切り替え

半角/全角 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。

a: 入力モード
　入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ
　MS-IMEの詳細な説明を見ることができます。

c: かなキーロック
　日本語入力モードの切り替えを行います。
　ボタンが押されていない状態 ：ローマ字入力
　ボタンが押されている状態　 ：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶数値やアルファベットの入力

数値キー入力モード

Fn ＋ NumLk を押すと、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらに Shift を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キーモード

Shift を押したとき

アルファベット入力モード

アルファベットの入力を大文字または小文字に固定することができます。固定する文字の切り替えは、次のキー操作で行います。

Shift ＋ Caps Lock

大文字に固定した状態のまま小文字を入力するには、Shift を押しながら文字を入力します。

固定する文字を切り替える場合は、Shift を押した状態でもう一度 Caps Lock を押します。

▶Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは Fn と組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機　能
Fn ＋ F1	省電力状態に移行します。購入時の設定では、スタンバイに移行します。 p.94 「省電力機能を使う」
Fn ＋ F2	無線LAN機能のON/OFFを切り替えます。 p.72 「無線LAN機能のON/OFF方法」
Fn ＋ F3	Outlook Express（またはOutlook）を起動します。
Fn ＋ F4	インフォメーションメニューを起動します。 p.23 「インフォメーションメニューを使う」
Fn ＋ F5	LCD画面を暗くします。 p.52 「LCDユニットの調整」
Fn ＋ F6	LCD画面を明るくします。 p.52 「LCDユニットの調整」
Fn ＋ F7　LCD/×	LCD画面のバックライトの入/切を切り替えます。 p.52 「バックライトの消灯」
Fn ＋ F8　LCD/	外付けの表示装置に接続している場合に、画面表示を切り替えます。 p.56 「画面表示の種類」
Fn ＋ F9　/×	タッチパッドのON/OFFを切り替えます。 p.37 「タッチパッド機能をOFFにする」
Fn ＋ F10	スピーカのミュート（消音）の入/切を切り替えます。 p.62 「音量の調節」
Fn ＋ F11　▼	スピーカの音量を小さくします。 p.62 「音量の調節」
Fn ＋ F12　▲	スピーカの音量を大きくします。 p.62 「音量の調節」
Fn ＋ NumLk	数値キー入力モードに切り替えます。 p.41 「数値キー入力モード」
Fn ＋ ScrLk	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

キーの組み合わせ	機　能
Fn ＋ Home	行の最初に移動します。＊
Fn ＋ End	行の最後に移動します。＊
Fn ＋ PgUp	前のページに移動します。＊
Fn ＋ PgDn	次のページに移動します。＊

＊ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

▶入力キーの機能変更

入力キーの機能を入れ替えたり、変更したりすることができます。

CtrlキーとFnキーの機能入れ替え

キーボード左下にある Ctrl とその隣の Fn の機能を入れ替えることができます。

キーの機能を入れ替える場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Exchange L-Ctrl & Fn key」：Enabled（有効）

購入時は、「Disabled」に設定されています。

p.104 「BIOS Setupユーティリティの操作」

Altキーの機能変更

キーボード右下にある Alt の機能をアプリケーションキーの機能に変更することができます。

キーの機能を変更する場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Exchange R-Alt & Win App key」：Enabled（有効）

購入時は、「Disabled」に設定されています。

p.104 「BIOS Setupユーティリティの操作」

HDDを使う

HDD（ハードディスクドライブ）は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。
本機には、シリアルATA仕様で容量が160GBのHDDが搭載されています。

- HDDのアクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりして衝撃を与えるとHDDが故障するおそれがあります。衝撃を与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは電源を切った状態で専用バッグに入れるなどして、保護するようにしてください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

HDD領域

本機のHDD領域は、Cドライブのみです。

データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、USB記憶装置などにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。
バックアップ方法は、p.167「データのバックアップ」をご覧ください。

USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが右側面に2個、左側面に1個、合計3個搭載されています。
USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。3個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。

- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどのUSB記憶装置を接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
  p.113 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

USB2.0の転送速度

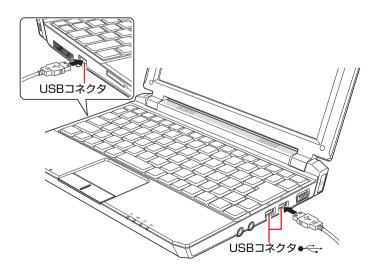
USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USBコネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

▶USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

USB機器の接続

USB機器の接続方法は次のとおりです。

1　USB機器のUSBコネクタを、本機のUSBコネクタ（●⇠）に接続します。

2　USB機器によっては、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。

＜取り外しアイコン＞

接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、USB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

接続したUSB機器の確認

接続したUSB機器を確認するには、「取り外し」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で［プロパティ］をクリックします。

USB機器の取り外し

USB機器の取り外しは、コンピュータの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

- **そのまま取り外す**

  「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。

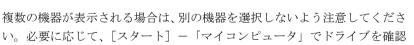
- **USB機器の終了処理をして取り外す**

  「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

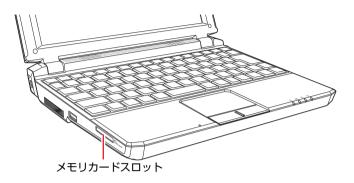
USB機器の終了処理の方法は次のとおりです。

1　通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

2　表示されたメニューから「(取り外したいUSB機器) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。

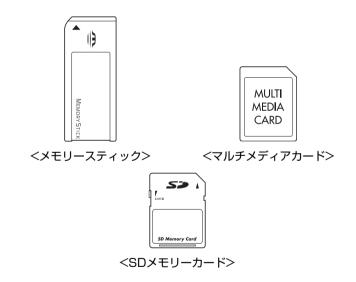
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。必要に応じて、［スタート］ー「マイコンピュータ」でドライブを確認してください。

3　「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB機器を本機から取り外します。

メモリカードを使う

本機左側面にはメモリカードスロットが装備されています。メモリカードは、デジタルカメラなどで使用するメディアで、コンピュータとのデータ交換に使われます。本機では、3種類のメモリカードを使用することができます。

▶本機で使用できるメモリカード

本機で使用できるメモリカードは、メモリースティック（PRO対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカード（SDHC対応）の3種類です。イラストは、各メモリカード表面のイメージです。

<メモリースティック>　<マルチメディアカード>

<SDメモリーカード>

- メモリースティック、SDメモリーカードの著作権保護機能には対応していません。
- メモリースティックおよびメモリースティックPROの高速転送、セキュリティ機能には対応していません。

メモリカード使用時の注意

メモリカードは、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

- メモリカードにアクセス中は、本機の電源を切ったり、メモリカードを抜いたりしないでください。カードのデータが破損するおそれがあります。
- メモリカードの種類によっては、セットすると、本機からカードの1部が1.5cm～2.5cm出た状態になります。カードの1部が出た状態で本機を持ち運ぶときは、メモリカードを破損しないように注意してください。本機をバッグなどに入れる場合には、必ずメモリカードを取り出してください。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- メモリカードは、データの書き込み中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。

  p.97 「時間経過で移行させない」
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードのフォーマット

メモリカードのフォーマットは必ず、メモリカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリカードが認識されなくなる場合があります。
フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

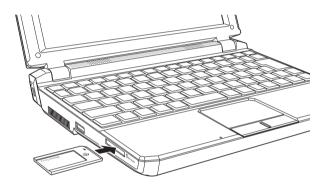
メモリカードのセットと取り外し

メモリカードを使用する前に、必ず p.48「メモリカード使用時の注意」をお読みください。

メモリカードのセット

メモリカードのセット方法は、次のとおりです。

1　メモリカードの表面を上にしてメモリカードスロットに挿入します。

奥までしっかりと押し込みます。
メモリカードの表面は、p.47「本機で使用できるメモリカード」で確認してください。

正しくセットしても、メモリカードの種類によってはスロットから1.5cm～2.5cm出たままになります。本機を持ち運ぶ際は、注意してください。本機をバッグなどに入れる場合には、必ずメモリカードを取り出してください。

2　認識されると、メモリカードが使用できます。

正しくセットされると、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。

＜取り外しアイコン＞

メモリカードの取り外し

メモリカードの取り外し方法は、次のとおりです。

1 メモリカードの終了処理を行うか、または本機の電源を切ります。

メモリカードの終了処理は、次の手順で行います。

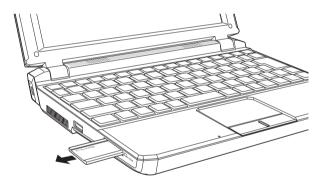
(1) 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

(2) 表示されたメニューから、「Generic- Multi-Card USB Device ー・・・を安全に取り外します」を選択します。

Generic- Multi-Card USB Device - ドライブ (D:) を安全に取り外します

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。必要に応じて、［スタート］ー「マイコンピュータ」でドライブを確認してください。

(3)「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、メモリカードの終了処理は完了です。

2 メモリカードをまっすぐに引き抜きます。

取り出したメモリカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

画面表示をする

ここでは、本機LCDユニットの画面表示について説明します。
本機は、LCDユニットのほかに外付けの表示装置を接続して画面を表示することができます。

p.55 「外付けディスプレイに表示する」

LCDユニットの仕様

本機では次のLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

- 10.2型　WSVGA　最大解像度　1024×600

LCD の表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCD の特性で起きるものので故障ではありません。

- LCDは、高精度な技術を駆使して180万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯または常時消灯する画素が存在することがあります。
- 色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
- Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついて見えることがあります。この現象は、背景の模様が市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景の色が中間色の場合に発生しやすくなります。

LCDのドット抜け基準値

本機LCDのドット*抜け基準値は、8個以下です。これは、全ドットの0.00043%以下に相当します。

＊「ドット」は副画素（サブピクセル）を指します。LCDでは、1個の画素が3個の副画素で構成されています。本機の場合は、1,843,200個の副画素があります。本書に記載しているドット抜け基準値は、ISO13406-2に従って、副画素単位で計算しています。

▶LCDユニットの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状　態
Fn ＋ F5 ☀	暗くなります
Fn ＋ F6 ☼	明るくなります

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯は、次の操作で行います。

キー操作/ LCDユニットの操作	状態
Fn ＋ F7 LCD/×	本機が起動している状態で押すとバックライトが消灯します。もう一度押すとバックライトが点灯します。
LCDユニットを閉じる	バックライトが消灯します。*

*本機では、LCDユニットを閉じたときの動作を変更できます。

☞ p.53「LCDユニットを閉じたときの動作」

LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じたときに、スタンバイや休止状態に移るなどの動作を設定できます。
購入時は「何もしない」(バックライトの消灯のみ)に設定されています。
設定は次のプロパティ画面から行います。

[スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「詳細設定」タブ

▶表示できる解像度と表示色

本機のLCDユニットで表示可能な解像度は次のとおりです。
表示色は中(16ビット)と最高(32ビット)が選択できます。

解像度	10.2型WSVGA
800×600	○
1024×600*	○

*ワイド表示

解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで DVD VIDEO を再生するときなどに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

解像度や表示色の変更方法

解像度と表示色の変更方法の手順は次のとおりです。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面解像度を変更する」をクリックします。

2 「画面の解像度」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。

3 項目を変更したら、［適用］をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

セーフモードでの起動

本機のLCD画面で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.161 「セーフモードでの起動」

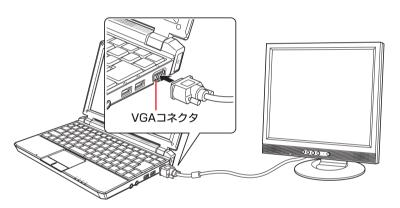
外付けディスプレイに表示する

本機では、外付けディスプレイ（アナログ）を接続して、画面を表示することができます。

ディスプレイの接続

本機に外付けディスプレイを接続すると、自動的に認識され、表示可能になります。
ディスプレイの接続は、次の手順で行います。

1 **本機と外付けディスプレイの電源を切ります。**

2 **外付けディスプレイの接続ケーブルを本機右側面のVGAコネクタ（▭）に接続します。**

3 **外付けディスプレイと本機の電源を入れます。**

Fn ＋ F8 （LCD/▭）を押すと、表示装置の切り替えができます。

外付けディスプレイへの表示を終了する

外付けディスプレイへの表示が終了したら、Windowsを終了後に必ず接続ケーブルを取り外してください。外付けディスプレイの電源が入っていなくても、ケーブルを接続しているだけで自動認識され、信号が出力されます。

プロジェクターの接続

プロジェクターの接続方法などは、プロジェクターに添付のマニュアルをご覧ください。

▶画面表示の種類

本機で対応している画面表示の種類は、次の4つです。

- LCD表示
  LCD画面のみに表示します。

- 外付けディスプレイ表示
  外付けディスプレイのみに表示します。

- クローン表示
  2つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。

＜LCD画面＞　＜外付けディスプレイ＞

- 拡張デスクトップ表示
  それぞれのディスプレイに対して、個別に解像度を設定することができます。複数の画面をコンピュータ上に表示する場合に便利です。

＜LCD画面＞　＜外付けディスプレイ＞

▶画面表示を切り替えるには

画面表示の切り替え方法には、次の2つがあります。

● キーボードで切り替える
● ユーティリティで切り替える

キーボードで切り替える

Fn ＋ F8（LCD/□）を押すと、画面表示が切り替わります。
キーボードで切り替えできる表示は、次の3つです。
● LCD Only（LCD表示）
● CRT Only（外付けディスプレイ表示）
● LCD + CRT（クローン表示）

● 解像度の異なる2つのディスプレイを接続してクローン表示に切り替えると、解像度は低い方の解像度で表示されます。
● 拡張デスクトップ表示で表示している場合、キーボードでの表示切り替えはできません。ユーティリティで切り替えてください。
● 動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードでの表示切り替えができないことがあります。

ユーティリティで切り替える

ユーティリティを操作すると、画面表示の切り替えや解像度の変更などを行うことができます。ユーティリティで切り替えできる表示は、次の4つです。

＜シングルディスプレイ＞
● ノートブック（LCD表示）
● PCモニタ（外付けディスプレイ表示）

＜マルチディスプレイ＞
● Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン（クローン表示）
● 拡張デスクトップ（拡張デスクトップ表示）

画面表示の切り替え方法は、次のとおりです。

1 **通知領域の「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」アイコンをクリックし、「グラフィックプロパティ」を選択します。**

＜Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobileアイコン＞

2 「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」画面が表示されたら、画面表示の種類を選択します。

シングルディスプレイを選択した場合は、手順4へ進みます。

3 手順2でマルチディスプレイを選択した場合は、次の設定を行います。

(1) 「プライマリデバイス」または「セカンダリデバイス」でディスプレイの設定をします。

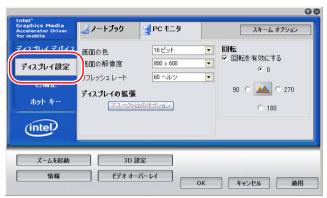
「プライマリデバイス」側のディスプレイには、［スタート］メニューやタスクバーが表示されます。

<拡張デスクトップ選択時の画面>

(2) 拡張デスクトップの場合は、必要に応じて2つの画面の表示位置を設定します。

画面アイコン1または2をドラッグして位置を変更します。

(3) デスクトップの設定をします。

「ディスプレイ設定」をクリックし、「ノートブック」タブまたは「PCモニタ」タブで解像度などを設定します。

＜拡張デスクトップ選択時の画面＞

4 **［OK］をクリックします。**

5 **「プライマリデバイス」側のディスプレイに「デスクトップの変更を確認」画面が表示されたら、［OK］をクリックします。**

これで画面表示の切り替えは終了です。

グラフィックオプションから切り替える

画面表示の切り替えは、次の場所からも行えます。

通知領域の「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」アイコンをクリック －「グラフィックオプション」－「出力先」

▶外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色

外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色は、次のとおりです。

● **解像度**　ピクセル（横×縦）

800×600
1024×600＊
1024×768
1280×720＊
1280×768＊
1280×1024
1400×1050
1440×900＊
1600×1200
1680×1050＊
1920×1200＊
＊ワイド表示

● **表示色**

中（16ビット）/ 最高（32ビット）

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラの出力解像度です。表示モードや接続する外付けディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- クローンモードの場合、実際に表示できる最大解像度は、コンピュータ側の最大解像度と外付けディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を調節してみてください。

サウンド機能を使う

本機には、次のサウンド機能が搭載されています。

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

● 内蔵ステレオスピーカ

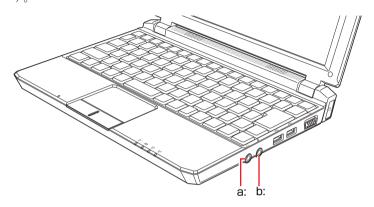
本機は、内蔵ステレオスピーカを搭載し、音源からの音声を出力することができます。

● 内蔵マイク

本機には、マイク（モノラル）が内蔵されています。この内蔵マイクを使って、音声を録音することができます。

p.63 「音声の再生・録音」

マイクなどの接続

本機右側面には、スピーカやヘッドフォン、マイクなどを接続するためのコネクタが標準で搭載されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

a: ヘッドフォン出力コネクタ
ヘッドフォンやスピーカと接続します（ステレオ）。音声を出力します。

b: マイク入力コネクタ
マイクと接続して、音声を本機に入力します。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

ヘッドフォンやマイクの接続
ヘッドフォンやマイクを接続すると内蔵スピーカや内蔵マイクの機能は自動的に無効になります。

▶音量の調節

スピーカの音量は次のキーを押して調節できます。

キー操作	状　態
Fn ＋ F10	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除されます。
Fn ＋ F11 ▼	音量が小さくなります。
Fn ＋ F12 ▲	音量が大きくなります。

▶音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は「Windows Media Player」を使用します。Windows Media Playerは次の場所から起動します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Media Player」

音声の録音

音声の録音は「サウンドレコーダー」を使用します。サウンドレコーダーは次の場所から起動します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「エンターテイメント」－「サウンドレコーダー」

サウンドレコーダーでは、最長 60 秒しか録音することができません。
長時間の録音を行うには、別途ソフトウェアが必要です。

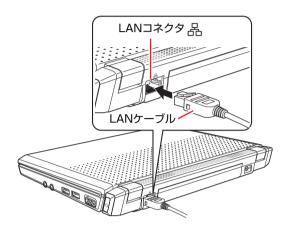
▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、音響効果などの設定ができます。
サウンドユーティリティを起動するには、通知領域の「サウンドユーティリティ」アイコンをダブルクリックします。

＜サウンドユーティリティアイコン＞

次の画面が表示されます。

ネットワーク（有線LAN）を使う

本機には、100Base-TX/10Base-Tに対応したネットワーク機能（有線LAN）が搭載されています。ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。
ネットワーク（有線LAN）を使用する場合は、本機背面のLANコネクタに市販のLANケーブルを接続します。

ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築方法は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  ・再起動する
  ・省電力状態に移行しないように設定する
  p.97「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。

インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、p.82「インターネットに接続するには」をご覧ください。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANを使用すると、電源切断時やスタンバイ、休止状態のときにネットワークからの信号により本機を復帰させることができます。
購入時、Wakeup On LANは無効に設定されています。使用するときは、必ずACアダプタを接続してください。また、電源切断状態からの復帰は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。
Wakeup On LANを使用する場合は、BIOSとネットワークドライバの設定を変更する必要があります。

BIOSの設定変更

「BIOS setupユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。
「Boot」メニュー画面－「Wake-Up On LAN」: Enabled（有効）
購入時は、「Disabled」に設定されています。

p.104 「BIOS Setupユーティリティの操作」
p.117 「Bootメニュー画面」

ネットワークドライバの設定変更

ネットワークドライバの設定を変更する方法は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」－「ハードウェア」タブ－［デバイスマネージャ］をクリックします。**

2 **「デバイスマネージャ」画面が表示されたら、「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、表示された一覧から「Realtek RTL8102E Family PCI-E Fast Ethernet NIC」をダブルクリックします。**

3 **「Realtek RTL8102E Family PCI-E Fast Ethernet NICのプロパティ」画面が表示されたら、「詳細設定」タブをクリックし、「プロパティ」にある次の2つの項目を確認します。**
(1)「LAN上のウェークアップのシャットダウン」を選択し、「値」項目が「有効」になっていることを確認します。
(2)「Wake-On-Lan機能」を選択し、「値」項目が「マジックパケット」になっていることを確認します。

4 **「電源の管理」タブをクリックし、「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」チェックを付けます。**
これでネットワークドライバの設定変更は完了です。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバ上からWindowsをインストールすることができます。

▶ネットワーク切替えツールを使う

会社や自宅など、複数のネットワーク環境（有線LAN・無線LAN）で本機をご使用の場合、「ネットワーク切替えツール」を使って、接続するネットワークの設定を簡単に切り替えることができます。

プロファイルの登録

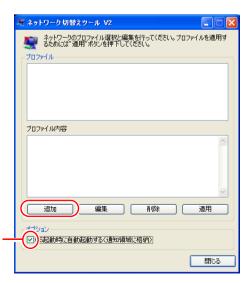
ネットワーク切替えツールでは、ネットワーク環境の設定をプロファイルとして管理します。複数のネットワーク環境をプロファイルに登録して使用します。
※ 複数の無線LAN環境設定を登録できますが、アクセスポイントの切り替えを行うことはできません。

プロファイルを登録する手順は、次のとおりです。
プロファイルの登録は、登録するネットワークに接続した状態で行ってください。

1 **登録するネットワークに接続します。**

2 **[スタート] －「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「ネットワーク切替えツール」をクリックします。**

3 **「プロファイルが登録されていません。・・・」と表示されたら、[OK] をクリックします。**
プロファイルがない場合にのみ表示されます。

4 **「ネットワーク切替えツール」画面が表示されたら、「OS起動時に自動起動する（通知領域に格納)」にチェックを付けて、[追加] をクリックします。**

チェックを付けると、次回起動時から通知領域にアイコンが常に表示されます

プロファイルの切り替え

必要なプロファイルを登録した後は、ネットワークの接続先に応じて、「ネットワーク切替えツール」でプロファイルを切り替えます。
切り替え方法は、次の2つです。

- **アイコンから切り替える**
  通知領域の「ネットワーク切替えツール」アイコンをクリックし、表示されたメニューから接続したネットワークのプロファイルをクリックします。

<ネットワーク切替えツールアイコン>

- **スタートメニューから切り替える**
  ［スタート］－「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「ネットワーク切替えツール」をクリックし、表示された画面で、接続したネットワークのプロファイルをクリックして、［適用］をクリックします。

プロファイル一括変更ツール

ネットワーク切替えツールに登録したプロファイルの情報を一括で変更することができます。
使用するときは、［スタート］－「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「プロファイル一括変更ツール」をクリックします。

通知領域に「ネットワーク切替えツール」アイコンが表示された状態では、プロファイル一括変更ツールを使用できません。
その場合は、表示されている「ネットワーク切替えツール」アイコンを右クリックし、「アプリケーションの終了」をクリックしてください。

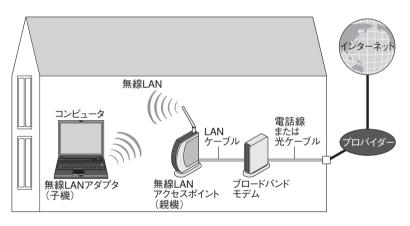
無線LANを使う

本機には、無線LANアダプタが内臓されています。
無線LANとは、電波を利用して通信を行うネットワークのことです。

対応規格

本機の無線LANアダプタは、次の規格に対応しています。
- IEEE802.11b/g

▶無線LANの概要

無線LANの概要を図で表すと、次のようになります（図は一例です）。

無線LANの用語一覧

無線LAN機器のマニュアルにより、使用している用語が本書と異なる場合があります。下記の用語一覧を参考にしてください。

本書での表記	別名
無線LAN	ワイヤレスLAN
無線LANアクセスポイント	親機、ワイヤレスLANステーション、アクセスポイント、各社の製品名称
無線LANアダプタ	子機、ワイヤレスステーション、無線LAN端末、無線LANクライアント
SSID	ESS-ID、ESSID、ネットワーク名、サービスセット識別子
SSID非通知	SSIDの隠蔽、SSIDを見せない設定、SSIDマスクビーコン、SSIDステルス、ステルスAP、ステルス機能、ANY接続拒否
MACアドレスフィルタリング	MACアドレスによる制限

無線LAN使用時の注意

無線LANを使用する際は、次の注意事項をよくお読みください。

- 無線LAN機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
  また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 無線LAN機能が搭載されている場合、医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
  - ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、無線LAN機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。
  電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
  満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- 無線LAN機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、サーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - ・再起動する
  - ・省電力状態に移行しないように設定する
    p.97 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態に復帰できない場合があります。
- 本機の無線LAN機能は、Wakeup On LANとリモートブートには対応していません。

電波に関する注意

無線LANは、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機の無線LAN機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の無線LAN機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。

- 本機の無線LAN機能は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 本機を分解/改造する
  - 本機底面に貼ってある無線LAN注意ラベルをはがす

- IEEE802.11b/gを使用して2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください(環境により電波が届かない場合があります)。

- 本機の無線LAN機能の使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1　構内無線局（免許を要する無線局）
    2　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機の無線LAN機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

▶無線LAN機能のON/OFF方法

無線LAN機能のON/OFF方法について説明します。

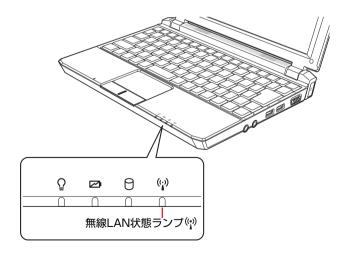
無線 LAN 機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電波が電子機器や医用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。

- 有線LANを使用する場合は、無線LAN機能をOFFにしてください。
- バッテリのみで本機を使用している場合、無線LAN機能がONになっていると、バッテリ駆動時間が短くなります。無線LANを使用しない場合は、無線LAN機能をOFFにしてください。

無線LAN機能のON/OFF切り替えは、Fn ＋ F2（(Ⓐ)）で行います。
キーを押すたびに、ONとOFFが切り替わります。
購入時、無線LAN機能はOFFになっています。

無線LAN状態ランプ

無線LAN機能のON/OFFは、無線LAN状態ランプ（(Ⓐ)）で確認できます。

無線LAN機能	無線LAN状態ランプ
ON	点　灯
OFF	消　灯

▶無線LAN接続の設定をする

ここでは無線LANアクセスポイント（以降、アクセスポイント）と本機を無線でつなげる方法（無線LAN接続方法）について説明します。
インターネットへの接続は、無線LAN接続完了後に、プロバイダーから提供されたマニュアルをご覧になり、設定を行ってください。

無線LAN接続の設定の流れは、次のとおりです。

無線LAN接続に必要な機器を用意するp.73

↓

アクセスポイントにセキュリティ設定するp.74

↓

本機をアクセスポイントに接続するp.76

↓

無線LANが使用できるようになる

アクセスポイントのマニュアルに従って接続する
アクセスポイントによっては、アクセスポイントに添付のマニュアルの記載に従って設定すると、簡単に無線LAN接続をすることができます。
まずは、アクセスポイントに添付のマニュアルをご覧ください。

無線LAN接続に必要な機器を用意する

無線LAN接続に必要な機器を用意します。

- 無線LANアクセスポイント
  本機と無線で通信するための機器です。本機の対応規格に合ったものを購入してください。
  アクセスポイントにはルータ付きとルータ無しがあります。接続するブロードバンドモデムにルータ機能がない場合は、ルータ付きを選択します。
- ブロードバンドモデム（ADSL用や光ファイバー用の通信装置）
  インターネットに接続する場合に必要です。多くの場合、プロバイダーと契約すると貸与されます。
- LANケーブル
  ブロードバンドモデムとアクセスポイント、アクセスポイントと本機を接続するのに使用します。

アクセスポイントにセキュリティ設定する

無線LANは電波を使用して通信するため、第三者に侵入されたり、通信データを盗み見されたりする可能性があります。また、他人のアクセスポイントに誤って本機を接続してしまう可能性もあります。これらのことを防ぐため、セキュリティ設定を行います。
セキュリティ設定はアクセスポイントのマニュアルを参照して行います。

1 **本機とアクセスポイントをLANケーブルでつなぎます。**

2 **すでにインターネットに接続している場合は、ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを一旦抜いておきます。**

次の手順でファイアウォールを無効にするため、セキュリティが確保されなくなります。インターネット接続している場合は、必ず電話線や光ケーブルを抜いてください。

3 **本機のファイアウォールを一旦無効に設定します。**

ファイアウォールが有効になっていると、無線LANの設定が正常に行えないことがあります。
設定方法は、p.90「ファイアウォール」または『セキュリティソフトウェアのマニュアル』をご覧ください。

4 **アクセスポイントの電源を入れます。**

5 **アクセスポイントのマニュアルを参照し、本機でアクセスポイントの設定画面を開きます。**

無線LANアクセスポイント設定メニュー

メニュー		
ステータス	XXXX	XXXXXXX
アドレス設定	XXXX	XXXXXX
高度な設定	XXX	XXX
MACフィルター	XXX	XXX
メンテナンス	XXXX	XXXX
パスワード	XXX	XXXX
設定ウィザード	XXX	XXX
	XXX	XXX

<イメージ>

6 **アクセスポイントのマニュアルに従って、次のセキュリティ設定を行います。**

これは最低限行っていただきたいセキュリティ設定です。

- **SSIDの変更**

  誤って他人のアクセスポイントに本機を接続しないように、自分のアクセスポイントのSSID（名前）を自分だけがわかる名前に変更します。SSIDは他人にも見えていますので、個人名や会社名など、所有者が特定できるような名前は避けてください。

- **暗号化**

  アクセスポイントと本機に同じ暗号化キーを設定すると、同じ暗号化キーを設定した機器同士のみが接続できるようになります。また、通信データが暗号化され、情報が傍受されにくくなります。
  暗号化にはいくつかの方式があります。

  一般家庭では次の方式を選択することをおすすめします。

  暗号化方式：WPA-PSK（パーソナル）

  アクセスポイントに「WPA」の機能がない場合は、「WEP」を選択してください。

  暗号化の種類：AES

  アクセスポイントに「AES」の機能がない場合は、「TKIP」を選択してください。

暗号化方式のセキュリティレベル

暗号化方式のセキュリティレベルは次の表を参考にしてください。

<table>
<tr><th>レベル</th><th colspan="2">暗号化方式</th></tr>
<tr><td rowspan="3">高
↑
低</td><td rowspan="2">WPA</td><td>AES</td></tr>
<tr><td>TKIP</td></tr>
<tr><td colspan="2">WEP</td></tr>
</table>

7 **「Wi-Fi Protected Setup （WPS）」で接続する場合は、機能を有効に設定し、アクセスポイントのPINコードを控えます。**

8 設定内容を下記の表に記入します。

設定内容は本機側の設定時に使用します。

項目	設定内容
SSID （ワイヤレスネットワーク名）	
暗号化方式 （セキュリティ設定）	
暗号化の種類	
暗号化キー （ワイヤレスセキュリティパスワード）	
キーインデックス	
PINコード （WPSで接続する場合）	

本機をアクセスポイントに接続する

アクセスポイント側に設定した暗号化キーやPINコードを本機側にも入力し、本機をアクセスポイントに接続します。

この作業は初めて接続するときのほかに暗号化キーを変更したときや、Windowsの再インストールをした場合にも行います。

1 本機の無線LAN機能をONにします。

p.72 「無線LAN機能のON/OFF方法」

2 ［スタート］－「接続」－「ワイヤレス ネットワーク接続」をクリックします。

3 「ワイヤレス ネットワーク接続」画面が表示されたら、接続するアクセスポイント（設定したSSID）を選択し、［接続］をクリックします。

4 **アクセスポイントに設定した暗号化キーやPINコードを入力します。**

<通常>

(1)「ワイヤレスセキュリティパスワード（暗号化キー）」と表示されたら、アクセスポイントに設定した暗号化キーを入力し、[OK] をクリックします。

<WPSで接続する場合>

(1)「使用可能なネットワーク」と表示されたら、接続するアクセスポイントを選択し、[次へ] をクリックします。
(2)「デバイス所有者パスワード」と表示されたら、接続するアクセスポイントのPINコードを入力し、[次へ] をクリックします。
(3)「このアクセスポイントはすでに設定されています。再設定しますか？」と表示されたら、[はい] をクリックします。
(4) アクセスポイントに設定したネットワーク名やパスワードが自動取得され、表示されたら、[次へ] をクリックします。
(5)「～ネットワークへの接続が完了しました。」と表示されたら、[完了] をクリックします。

アクセスポイントでWPSが有効に設定されていても、暗号化方式によっては、この方法で接続できない場合があります。その場合は、p.80「ワイヤレス ネットワークを手動作成して接続する」の手順で接続してみてください。

5 **「ワイヤレス ネットワーク接続」画面に「…に接続しています。」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。**

6 **本機のファイアウォールを有効に戻します。**

p.90「ファイアウォール」または『セキュリティソフトウェアのマニュアル』

7 **ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを抜いていた場合は、元に戻します。**

8 **本機とアクセスポイントをつないでいるLANケーブルを外します。**

これで接続作業は完了です。

ワイヤレスプロファイル

ここで設定した無線LANは、「ワイヤレスプロファイル」として自動的に保存されます。ワイヤレスプロファイルが作成されていると、次回からは設定を行わずに簡単に無線LANに接続することができます。

▶強固なセキュリティ設定をする

無線LANのセキュリティ機能には、ほかにも次のようなものがあります。

- MACアドレスフィルタリング
- SSID非通知

セキュリティをさらに強固にしたい場合は、必要に応じて設定を行ってください。
アクセスポイントによっては上記の機能に対応していないものもあります。詳しくはアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

MACアドレスフィルタリング

MACアドレスとは、ネットワーク機器に割り当てられている固有の番号のことです。MACアドレスフィルタリングをすると、接続を許可したMACアドレスを持つコンピュータ以外はアクセスポイントに接続できないようになります。
MACアドレスフィルタリングの方法は、次のとおりです。

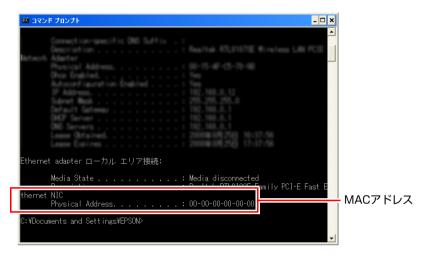
MACアドレスの確認

本機のMACアドレスを確認します。

1 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」を選択します。**

2 **コマンドプロンプトが表示されたら、「C:¥・・・>」のあとに次のとおり入力し、［↵］を押します。**

ipconfig□/all（□はスペースを意味します）

3 **本機の無線LANアダプタのMACアドレス（Physical Address）が表示されます。**

MACアドレスの英数値を下記の表に記入しておきましょう。
MACアドレスフィルタリングの設定時に使用します。

MACアドレス	

4 **をクリックして、コマンドプロンプトを閉じます。**

MACアドレスフィルタリングの設定

アクセスポイントでMACアドレスフィルタリングの設定をします。

1 **アクセスポイントのマニュアルに従って、MACアドレスフィルタリングの設定をします。**

2 **p.76 「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線LAN接続をすることができます。**

SSID非通知

SSID非通知の設定を行うと、コンピュータ側にSSIDが表示されなくなります。他人にアクセスポイント（SSID）が見えなくなるため、無断接続を防ぐことができます。
SSID非通知の設定方法は、次のとおりです。

1 **アクセスポイントのマニュアルに従って、SSID非通知の設定をします。**

2 **p.76 「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線LAN接続をすることができます。**
まだ接続ができていない場合は、次の手順で接続してください。

ワイヤレス ネットワークを手動作成して接続する

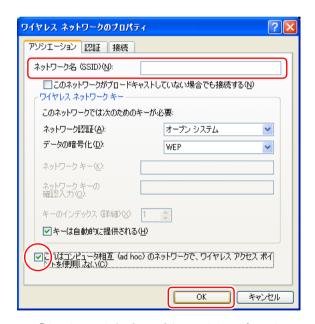
初めて本機をアクセスポイントに接続するときにSSID非通知の設定がされていると、本機にアクセスポイント（SSID）が表示されないため、p.76「本機をアクセスポイントに接続する」の方法では接続ができません。次の方法で設定をすべて手動で入力して、ワイヤレス ネットワークを作成してください。

1 **デスクトップ上の「マイネットワーク」アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。**

2 **「ネットワーク接続」画面が表示されたら、「ワイヤレス ネットワーク接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。**

3 **「ネットワーク接続のプロパティ」画面が表示されたら、「ワイヤレス ネットワーク」タブをクリックします。**

4 **「優先ネットワーク」項目で［追加］をクリックします。**

5 **「ワイヤレス ネットワークのプロパティ」画面の「アソシエーション」タブで、次の設定を行います。**

(1)「ネットワーク名（SSID）」にアクセスポイントのSSIDを入力します。
(2) 必要に応じてワイヤレス ネットワーク キーの項目も入力します。
(3)「これはコンピュータ相互（ad hoc）の・・・」にチェックを付けます。
(4)［OK］をクリックします。
「ネットワーク接続」画面の「ワイヤレス ネットワーク接続」が接続状態になったら設定は完了です。

▶複数の無線LAN環境を登録する

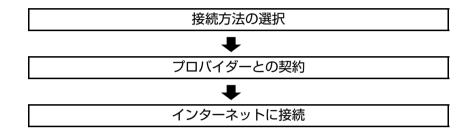
複数の無線LAN環境（職場やホットスポットなど）の設定を事前に登録しておきたいときは、手動入力でワイヤレスプロファイルを作成します。
手動入力でワイヤレスプロファイルを作成する方法は、p.80「ワイヤレスネットワークを手動作成して接続する」をご覧ください。

複数のネットワーク環境の設定を切り替えたい場合
会社や自宅など、複数のネットワーク環境（有線LAN・無線LAN）で本機をご使用の場合、接続するネットワークの設定を簡単に切り替えることができます。設定方法は、p.67 「ネットワーク切替えツールを使う」をご覧ください。

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続の概要や、インターネットを利用するためのソフトウェアなどについて説明します。

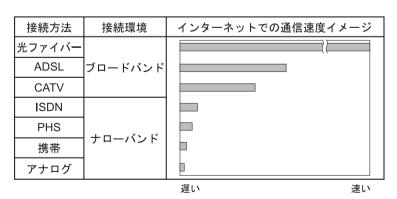
接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。

▶接続方法の選択とプロバイダーとの契約

インターネットに接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダー（インターネットサービスプロバイダー、ISP）と契約します。
接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダーによって異なります。詳しい内容はプロバイダーにお問い合わせください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと言い、光ファイバー、ADSL、CATVなどを利用した接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと言います。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		

インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- **光ファイバー（FTTH）**
  ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。
  ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。
- **ADSL**
  電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダーのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。
  利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまうので、事前に速さの確認をする必要があります。
- **CATV**
  ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。
- **そのほかの接続方法（ナローバンド）**
  アナログ電話回線やISDN回線などを使った低速な接続方法があります。

ダイヤルアップ接続
ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と言います。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダーにお問い合わせください。

インターネットに接続する

プロバイダーと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダーより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

再インストール後のインターネット接続
Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダーからの説明書は失くさないように大切に保管してください。

インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気を付けてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、本機が障害を被ることがあります。
- コンピュータウイルスに感染すると、本機が障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。
  ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。
  - ウイルスが添付されたメールを受信する
  - 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

  これらの危険から本機を守る方法については、p.87 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
- 電子メールの利用：Outlook Express（アウトルックエクスプレス）

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際に「インターネット接続ウィザード」画面が表示された場合は、初期設定を行います。
初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダーから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

1　次のどちらかの方法でOutlook Expressを起動します。

- ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」
- Fn ＋ F3（✉）を押す

2　「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して［次へ］をクリックします。

3　「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダーから取得したメールアドレスを入力して［次へ］をクリックします。

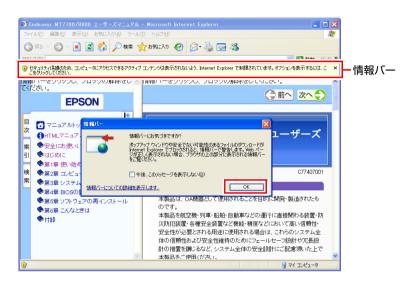
4　「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダーから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して［次へ］をクリックします。

5　「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダーから指定されているメールアカウントとメールパスワードを入力して［次へ］をクリックします。

6　「設定完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

初期設定をあとから行う
「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。
「ツール」メニュー －「アカウント」－［追加］－「メール」

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」画面が表示されたら、［OK］をクリックして画面を閉じ、「情報バー」をクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。

Internet Explorerの便利な追加機能

本機にはInternet Explorerの便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。購入時にはインストールされていませんので、必要に応じてインストールしてください。

● JWord

「JWord」を使うと、Internet Explorerのアドレスバーを利用して、日本語で簡単にインターネットを検索できます。

● gooスティック

「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。インストールすると、Internet Explorerのツールバーに検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されます。

● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版

Internet Explorerのツールバーに、「McAfee SiteAdvisor」ボタンが設定され、Webサイトの安全性評価を確認できます。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版の詳しい使い方は、ボタンから「ヘルプ」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を診断し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。
Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

はじめてインターネットに接続したときは

はじめてインターネットに接続したときや、Windowsの再インストールをした場合は、手動でWindows Updateを行ってください。
手動でWindows Updateを行う方法は、次のとおりです。

1 **[スタート] ―「すべてのプログラム」―「Windows Update」をクリックします。**

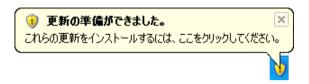
2 **Windows Updateのホームページが表示されたら、ホームページの記載に従って更新プログラムをダウンロード、インストールします。**

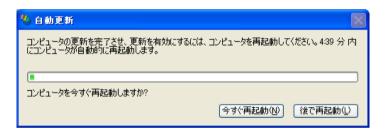
自動更新の設定

本機は、自動的にWindows Updateが行われるよう、自動更新の設定がされています。そのままお使いください。
自動更新の設定がされていると、インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされ、設定時刻に自動でインストールされます。
設定時刻に本機が起動していない場合は、次回起動時に自動でインストールされます。
自動更新は次の場所で設定されています。

[スタート]―「コントロールパネル」―「セキュリティセンター」―「自動更新」

「更新の準備ができました。」と表示されたら

インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされると、画面右下に「更新の準備ができました。」と表示されます。インストールの設定時刻になる前に更新プログラムをインストールしたい場合は、通知アイコンをクリックし、インストールをしてください。

「自動更新」画面が表示されたら

インストールの設定時刻（または次回起動時）に更新プログラムの自動インストールが行われると、「自動更新」画面が表示されます。作業中の場合はデータを保存してください。本機が再起動したら、インストールは完了です。

▶セキュリティソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。
コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。
ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺検出機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時にNorton Internet Security 90日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

更新サービスの有効期限

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、インストール後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90日版はインストールしないでください。
インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」のインストールを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になりますので、そのままお使いください。

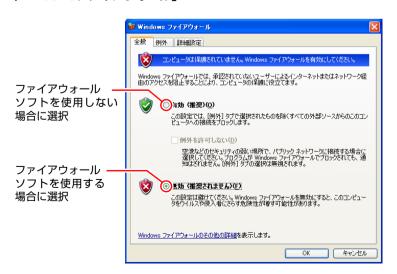
Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。
本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合＞
ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合＞
Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

[スタート]－「コントロールパネル」－「セキュリティセンター」－「Windowsファイアウォール」

Webフィルタリングソフトウェア

Webフィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを見せないようにするための技術です。Webフィルタリングは万全ではありません。ただし、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i−フィルター 30日版を使う

本機には、「Webフィルタリング」機能を持つ「i−フィルター 30日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピュータを使用する際に、有害なサイトへのアクセスを制限したいときなどは、i−フィルター 30日版を使用することをおすすめします。

i−フィルター 30日版のインストール

購入時、本機にはi−フィルター 30日版はインストールされていません。
インストール方法は、p.133 「i−フィルター 30日版のインストール」をご覧ください。

市販のWebフィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i−フィルター 30日版はインストールしないでください。

i−フィルター 30日版の使用方法

i−フィルター 30日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとすると、自動的にブロックされます。

初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は、使用者別に設定できます。必要に応じて、「フィルタリング設定」画面で設定を変更してください。
「フィルタリング設定」画面の表示方法は、次のとおりです。

1　**デスクトップ上の「i−フィルター」アイコンをダブルクリックします。**

＜i−フィルターアイコン＞

「i−フィルター…」画面が表示された場合は、ユーザー登録が完了していません。
ユーザー登録完了後に、設定を行ってください。
p.134 「i−フィルター 30日版のユーザー登録」

2 「管理パスワードの入力」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して［OK］をクリックします。

3 「i －フィルター」の「トップページ」が表示されたら、「フィルタリング設定」をクリックします。

「フィルタリング設定」画面が表示されます。
iーフィルター 30日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は
セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「iーフィルター 30日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。
この場合は、「iーフィルター 30日版」の使用を許可してください。

iーフィルター 30日版の利用期限

iーフィルター 30日版の利用期限は、セットアップ後30日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

<継続して利用する場合>
継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。
p.93 「iーフィルター 30日版のサポート」

本機に添付のｉ－フィルター 30 日版は、「ｉ－フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

＜継続して利用しない場合＞

i－フィルター 30日版のアンインストールを行ってください。

i－フィルター 30日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

p.93 「i－フィルター 30日版のサポート」

i－フィルター 30日版のサポート

i－フィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。

よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。

なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

省電力機能を使う

省電力機能を利用すると、本機を使用していない間、省電力状態に移行して消費電力を抑えることができます。特にバッテリだけで使用する場合は、省電力機能を使うことで本機の使用可能時間を延ばすことができます。

省電力機能使用時の注意

省電力機能を使用する際には、次のような注意事項があります。使用する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
  - 周辺機器を接続している
  - ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。

  p.97 「時間経過で移行させない」
  - サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
  - メモリカードや外部接続記憶装置（USB FDDや外付け光ディスクドライブなど）へのデータ書き込み時：データ破壊の可能性
  - ネットワーク機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
  - 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
  - 省電力状態で、周辺機器などの抜き差しを行った場合
  - ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

▶省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

● HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

● スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態で本機の動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプと電源スイッチが点滅します。通常の状態へは、十数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

● 休止状態

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。本機の電源を切った状態と同様に電力を消費しません。通常の状態への復帰には多少時間がかかります。
休止状態を有効にするためには設定が必要です。

p.96 「休止状態を有効にする」

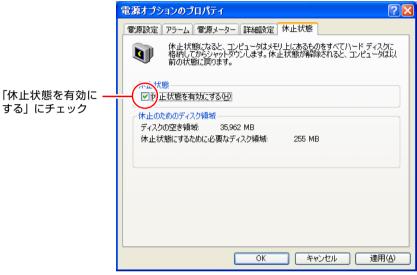
電源ランプの表示

省電力状態は、電源ランプ（ ）の点灯・点滅により確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常の状態	点　灯
HDD/ディスプレイの電源切断時	点　灯
スタンバイ	点　滅
休止状態	消　灯
電源切断時	消　灯

休止状態を有効にする

「休止状態」を有効にすると、本機の電源を切った状態と同様に、電力の消費を抑えることができます。
休止状態の設定は次の場所から行います。

[スタート] －「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「休止状態」タブ

<イメージ>

▶省電力状態に移行する

省電力状態に移行するには、次の方法があります。

- **時間経過で移行する**
  設定した時間を超えて本機を使用しないと省電力状態に移行します。
- **直ちに移行する**
  席を外すときなどに、手動で省電力状態に移行します。
- **バッテリ残量低下時に移行する**
  バッテリ残量が少なくなると、省電力状態に移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

[スタート] －「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」

時間経過で移行する

省電力状態に移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。

時間経過で移行させない

メモリカードや外部接続記憶装置（USB FDDや外付け光ディスクドライブなど）へデータの書き込みを行う場合などは、時間経過による省電力状態への移行を無効に設定します。
時間経過による省電力状態への移行を無効にするには、すべての項目の時間設定を「なし」に設定します。

直ちに移行する

次の方法でスタンバイまたは休止状態に移行します。

● [スタート] －「終了オプション」から選択、実行する

休止状態を有効にしている場合は、Shift を押しながら実行すると、「スタンバイ」ではなく「休止状態」を選択できます。

p.96 「休止状態を有効にする」

● Fn ＋ F1 （zZ）を押す：初期値は「スタンバイ」

キーを押したときに休止状態に移行するように設定を変更することもできます。

p.98 「ほかの方法で直ちに移行する」

ほかの方法で直ちに移行する

次の方法で、スタンバイや休止状態に直ちに移行することもできます。移行するには、設定が必要です。

● LCDユニットを閉じる：初期値は「何もしない」（バックライト消灯のみ）
● 電源スイッチを押す：初期値は「シャットダウン」

Fn ＋ F1（zZ）を押したときの動作を変更することもできます。

設定は、「詳細設定」タブで行います。

バッテリ残量低下時に移行する

本機は、バッテリ残量が低下したときに省電力状態に移行するように設定することもできます。

p.31 「バッテリアラームの設定」

▶省電力状態から復帰する

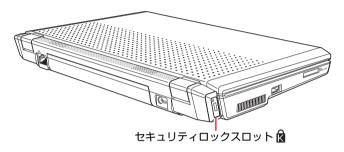
省電力状態から復帰して通常の状態に戻る方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	点　灯	タッチパッド、キーボードを操作する。
スタンバイ	点　滅	・電源スイッチを押す。 ・キーボードを操作する。
休止状態	消　灯	電源スイッチを押す。

そのほかの機能

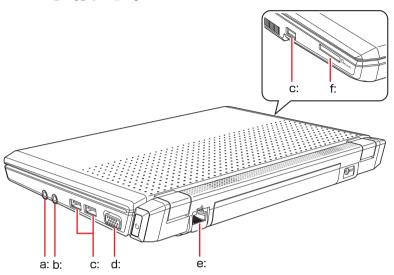
ここでは、そのほかの機能について説明します。

セキュリティロックスロット

本機左側面には、「セキュリティロックスロット」が装備されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。

当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

http://shop.epson.jp/

外付け可能な周辺機器

本機のスロットやコネクタには、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

a: ヘッドフォン出力コネクタ
- スピーカ
- ヘッドフォン

b: マイク入力コネクタ
- マイク

c: USBコネクタ
- プリンタ
- スキャナ
- デジタルカメラ
- 外付け光ディスクドライブ
- USB FDD
- USBマウス
- USB対応機器

d: VGAコネクタ
- 外付けディスプレイ（アナログ接続）
- プロジェクター

e: LANコネクタ
- ネットワーク

f: メモリカードスロット
- メモリースティック
- マルチメディアカード
- SDメモリーカード

そのほかの接続可能な周辺機器

本機では、ケーブルを介さずに次の機器が接続できます。

- 無線LAN対応機器

第2章 BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

当社製以外のBIOSを使用すると、Windowsが正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上にROMとして搭載されています。
BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成にあわせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。
BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

リチウム電池の寿命
BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタやバッテリからの電源供給がまったくない場合、寿命は約5年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
そのような場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す
  万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。
  p.120 「BIOS Setupユーティリティの設定値」
- 初期値や前回保存した設定値に戻す
  p.109 「設定値を元に戻す」

BIOS Setupユーティリティの操作

ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDDアクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

▶BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの F2 の位置を確認してください。手順2では、すばやく F2 を押す必要があります。

1　本機の電源を入れます。

すでにWindowsが起動している場合は再起動します。

2　本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの F2 を押します。

Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう一度実行してください。

3　「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。

＜BIOS Setupユーティリティ（イメージ）＞

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合には、本機の電源を入れたときに次のメッセージが表示されます。

Press F1 to Run SETUP
Press F2 to load default values and continue

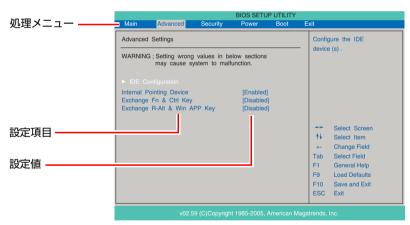
このメッセージが表示されたら F1 を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Save Changes and Exit」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

p.108 「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOSセットアップユーティリティを起動すると、次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。

<メニュー画面（イメージ）>

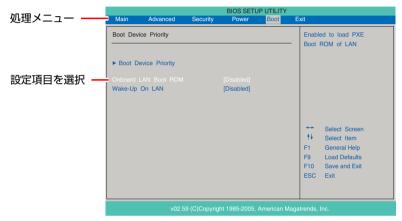
ここで説明に使用している画面はイメージです。実際の設定項目とは異なります。実際の各メニュー画面と設定項目の説明は p.115 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

操作方法

BIOS Setupユーティリティの操作方法は、次のとおりです。

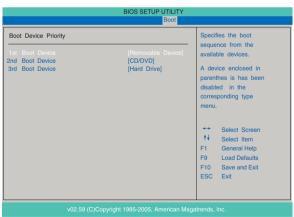
1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

【→】【←】でメニュー間を移動します。

【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。

＜メニュー画面（イメージ）＞

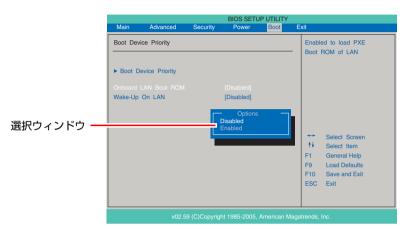
＜▶のある項目の場合＞

▶のある項目の場合、【↵】を押すとサブメニュー画面が表示されます。

【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。

＜サブメニュー画面（イメージ）＞

サブメニュー画面から戻るには【Esc】を押します。

2 設定値を変更します。

【↵】を押して選択ウィンドウを表示し、【↑】【↓】で値を選択し、【↵】で決定します。

<イメージ>

キー操作一覧

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
【↑】,【↓】	設定を変更する項目を選択します。
【←】,【→】	処理メニューを選択します。
【Fn】+【-】(【P せ】) 【Fn】+【+】(【+ れ】)	項目の値を変更します。
【↵】	● メニュー画面中の▶の付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
【Esc】	● 変更した内容を破棄し、終了します。 p.108「BIOS Setupユーティリティの終了」 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
【F7】	変更した設定値を前回保存した設定値に変更します。 p.109「設定値を元に戻す」
【F9】	全設定項目の値を初期値に変更します。 p.109「設定値を元に戻す」
【F10】	変更した設定値を保存して終了します。 p.108「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。

1 F10 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、↵ を押します。

Discard Changes and Exit（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。

1 Esc を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、↵ を押します。

▶設定値を元に戻す

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimal Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に戻します。

1 F9 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Load Optimal Defaults ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択して ↵ を押します。

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 F7 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択して ↵ を押します。

▶パスワードを設定する

「Security」メニュー画面でBIOSのパスワードを設定すると、BIOSやWindowsの起動時にパスワードを要求されるようになります。

パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき

パスワードの種類

パスワードには次の3種類があります。

- Supervisor Password（管理者パスワード）
  コンピュータの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
  管理者パスワード設定すると、ユーザーパスワードも設定可能になります。
  管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも削除されます。
- User Password（ユーザーパスワード）
  一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでBIOSにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます（権限は、設定変更することができます）。
  p.111 「ユーザーパスワードの権限設定」
- Primary Master HDD User Password（HDDパスワード）
  本機内部のHDDへのアクセスを制限するためのパスワードです。
  HDDパスワードを設定すると、HDDをほかのコンピュータに接続した場合、認識されません。

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。

設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。万一、管理者パスワードやHDDパスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

1 **「Change Supervisor Password」または「Change User Password」、「Primary Master HDD User Password」を選択して［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Enter New Password

2 **パスワードを入力し、[↵]を押します。**

「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

3 **続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、[↵]を押します。**

Confirm New Password

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match！」というメッセージが表示されます。［Ok］が選択された状態で[↵]を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやりなおしてください。

4 **「Password installed.」というメッセージが表示されたら、［Ok］が選択された状態で[↵]を押します。**

パスワードの設定が完了すると、パスワード項目の値が次のように変わります。

パスワード項目	変更後の値
Supervisor Password	Installed
User Password	Installed
Primary Master HDD Password Status	Enabled

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。

ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードでBIOSにログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

p.118 「Securityメニュー画面」－「User Access Level」

パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setupユーティリティ起動時や、Windows起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

p.118 「Securityメニュー画面」－「Password Check」

パスワードの削除方法

パスワードの削除方法は、次のとおりです。
管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでBIOSにログオンしてください。
管理者パスワードを削除すると、自動的にユーザーパスワードも削除されます。

1 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」、「Primary Master HDD User Password」を選択して［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

2 何も入力せずに［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.
［Ok］

3 ［Ok］が選択された状態で［↵］を押します。

パスワードの削除が完了すると、パスワード項目の値が次のように変わります。

パスワード項目	削除後の値
Supervisor Password	Not Installed
User Password	Not Installed
Primary Master HDD Password Status	Disabled

ユーザーパスワードの削除方法

ユーザーパスワードは、別の方法で簡単に削除することができます。簡単な削除方法は、次のとおりです。

1 「Clear User Password」を選択して、［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。

Clear User Password?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、［↵］を押します。

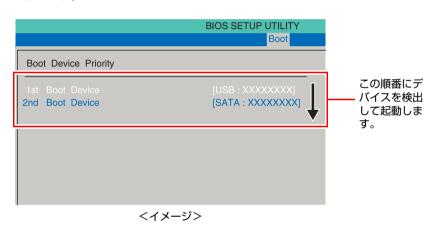
「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これで、ユーザーパスワードが削除されました。

▶起動（Boot）デバイスの順番を変更する

本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク（USBフラッシュメモリやUSB HDDなど）を接続していたり、USB FDDにメディアがセットされていると、Windowsが起動しないことがあります。
このような場合、「BIOS Setupユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピュータは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム（WindowsなどのOS）から起動します。
起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で行います。

<イメージ>

「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。

- USB:XXXXXXXX*1（USB FDDやUSBフラッシュメモリ、USB HDDなど）
- SATA:XXXXXXXX*2（本機に搭載のHDD）
- Network:Realtek Bo（ネットワーク）
- Disabled（検出するデバイスを割り当てないときに設定します）

購入時は、USB:XXXXXXXXの順番がHDDより前に設定されているため、USBフラッシュメモリなどのリムーバブルディスクを接続しているとHDD内のWindowsから起動できません。

*1 XXXXXXXXには、「Generic- Multi」またはUSB機器の型番が表示されます。
*2 XXXXXXXXには、本機に搭載されたHDDの型番が表示されます。

起動（Boot）デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここではリムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できるように、HDD、リムーバブルディスクの順番に設定する方法を説明します。

1 **「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択して［↵］を押します。**

2 **サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。**

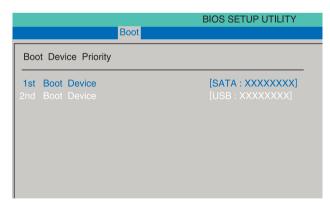
購入時は、リムーバブルディスク、HDDの順番に起動するように設定されています。

3 **HDDの順番を1番目に設定します。**

(1) ［↑］［↓］で「1st Boot Device」（1番目）を選択し、［↵］を押します。

(2) 「選択」ウィンドウが表示されたら、［↑］［↓］で「SATA:XXXXXXXX」を選択し、［↵］を押します。

<選択ウィンドウ画面>

HDDの順番が1番目になります。

4 **［F10］を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。**

p.108 「BIOS Setupユーティリティの終了」

起動デバイスの順番が変更になり、リムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できます。

これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
  日付、時間などの設定を行います。
- Advancedメニュー画面
  IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
- Bootメニュー画面
  システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
- Securityメニュー画面
  パスワードに関する設定や、マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。
- Exitメニュー画面
  BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間などの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

＊は項目表示のみ

BIOS Information	*Version	本機に搭載されているBIOSのバージョンを表示します。
	Build Date	BIOSが開発された日付（月／日／年）を表示します。
Processor	*Type	本機に搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
	*Speed	本機に搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
System Memory	*Size	メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。
System Time		時刻を設定します。（時：分：秒）の順で表示されています。
System Date		日付を設定します。（曜日月/日/年）の順で表示されています。

▶Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

項目		説明
IDE Configuration IDE装置の設定を表示します。	Primary IDE Master/ Primary IDE Slave/ Secondary IDE Master/ Secondary IDE Slave	接続しているIDE装置について、以下の項目をサブメニューに表示します。 表示される項目はIDE装置によって異なります。
	*Device	IDE装置の機器の名称を表示します。
	*Vendor	IDE装置の型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*LBA Mode	LBA（Logical Block Addressing）をサポートしているかどうかを表示します。
	*Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*PIO Mode	IDE 装置の転送モードを表示します。
	*Async DMA	IDE 装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*S.M.A.R.T.	S.M.A.R.T.（Self Monitoring Analysis and Reporting Technology）をサポートしているかどうかを表示します。
Internal Pointing Device		本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Enabled：タッチパッドを使用します。 Disabled：タッチパッドを使用しません。
Exchange L-Ctrl & Fn key		キーボードの左下にある Ctrl と、その隣にある Fn の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：Ctrl と Fn のままです。 Enabled：Ctrl と Fn になります。
Exchange R-Alt & Win App key		キーボードの右下にある Alt をアプリケーションキーの機能に入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：Alt の機能を入れ替えません。 Enabled：Alt をアプリケーションキーの機能に入れ替えます。

▶Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
起動の順番の変更方法については、p.113 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

項目		説明
Boot Device Priority Windowsを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「USB:Generic-Multi」です。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。外付け光ディスクドライブを接続した場合、初期値は、外付け光ディスクドライブ「USB:（外付け光ディスクドライブの型番）」です。外付け光ディスクドライブを接続していない場合は、本機に搭載のHDDが設定されます。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。外付け光ディスクドライブを接続した場合、初期値は、本機に搭載のHDD「SATA:（HDDの型番）」です。
	4th Boot Device	ネットワークから起動する場合に使用します。「Boot」メニュー画面－「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定してから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してBIOSを終了します。再度BIOSを起動すると表示されます。初期設定は「Network:Realtek Bo」です。
Hard Disk Drives	*1st Drive	本機に搭載されているHDDの型番を表示します。
Removable Drives	*1st Drive	本機のメモリカード（Generic- Multi）と表示されています。USB機器（光ディスクドライブ以外）を接続した場合は、2nd Driveが追加され、型番を表示します。
CD/DVD Drives ※外付け光ディスクドライブを接続すると表示されます。	*1st Drive	外付け光ディスクドライブの型番を表示します。
Quiet Boot		起動時の画面に「EPSON」と表示するかどうかを設定します。 Disables ：表示しません。 Enabled ：表示します。
Onboard LAN Boot ROM		リモートブートを行う場合は「Enabled」に設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled ：有効にします。
Wake-Up On LAN （LANからの起動設定）		電源切断時やスタンバイ、休止時において、ネットワークからの信号により起動するかどうかを設定します。 この機能を使用するときは、必ずACアダプタを接続してください。また、電源切断状態からの復帰は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled：設定しません。 Enabled ：設定します。

▶Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードに関する設定や、マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。パスワードの設定方法は、p.110 「パスワードを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

＿＿は初期値
＊は項目表示のみ

*Supervisor Password/User Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Not Installed：パスワードが設定されていません。 Installed　：パスワードが設定されています。
Change Supervisor Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定します。BIOS SetupユーティリティやWindows起動時にパスワード入力を要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level ※「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。	「User Password」（ユーザーパスワード）を入力したユーザーがBIOS Setupユーティリティにアクセスすることを4段階で制限します。 No Access：BIOS Setupユーティリティを起動することができません。 View Only：BIOS Setupユーティリティを閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited：BIOS Setupユーティリティを閲覧できるほかに、一部の設定項目を変更できます。 Full Access：管理者と同一の権利を許可します。BIOSセットアップユーティリティのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。
Change User Password ※「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。	「User Password」（ユーザーパスワード）を設定します。BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password ※「User Password」（ユーザーパスワード）を設定すると表示されます。。	ユーザーパスワードを削除します。 ↵ を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
Password Check ※「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。	パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup：BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 Always：BIOS SetupユーティリティやWindows起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。
Boot Sector Virus Protection	HDDのブートセクタ（システム領域）への書き込みを禁止するかどうかを設定します。 Disabled：書き込みを許可します。 Enabled：書き込みを禁止します。

I/O Interface Security データの盗難を防ぐために、インタフェースの有効、無効を設定します。	Audio	サウンド機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED ：サウンド機能の使用を可能にします。 LOCKED ：サウンド機能の使用を不可にします。
	LAN	ネットワーク（有線LAN）機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED ：LAN 機能の使用を可能にします。 LOCKED ：LAN 機能の使用を不可にします。
	Wireless LAN	無線LAN機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED ：無線LAN機能の使用を可能にします。 LOCKED ：無線LAN機能の使用を不可にします。
	USB	USB機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED ：USB機能の使用を可能にします。 LOCKED ：USB機能の使用を不可にします。
	SD Card Reader	メモリカード 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED ：メモリカード機能の使用を可能にします。 LOCKED ：メモリカード機能の使用を不可にします。
*Primary Master HDD Password Status		「Primary Master HDD User Password」（HDDパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Not Installed ：パスワードが設定されていません。 Installed ：パスワードが設定されています。
Primary Master HDD User Password		HDDパスワードを設定します。 パスワードを設定したHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。 BIOS Setupユーティリティ起動時、システム起動時や休止状態からの復帰時にHDDパスワードの入力が必要です。

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定を初期値に戻したりします。
設定項目は、次のとおりです。

Save Changes and Exit	変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes and Exit	変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した値に戻します。
Load Optimal Defaults	BIOS Setupユーティリティを終了せずに、パスワード以外の変更した設定内容を初期値に戻します。

▶BIOS Setupユーティリティの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange L-Ctrl & Fn key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange R-Alt & Win App key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device				
	2nd Boot Device				
	3rd Boot Device				
	4th Boot Device				
Quiet Boot		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard LAN Boot ROM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Wake-Up On LAN		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Security メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Supervisor Password		Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
User Password		Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
User Access Level＊		No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
Password Check＊		Setup	Always	Setup	Always
Boot Sector Virus Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
I/O Interface Security	Audio	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Wireless LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	USB	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	SD Card Reader	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
Primary Master HDD Password Status		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

＊「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。

第3章
ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。
HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。
再インストールは「リカバリ」とも言います。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

▶重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』(別冊)

Webフィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付のWebフィルタリングソフトウェア「ｉーフィルター30日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windowsを再インストールすると利用期限が30日に設定されてしまいます。
この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアルIDを利用してインストールを行ってください。
詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

必要な機器とメディア

再インストールには、次の機器とメディアが必要です。

- 外付け光ディスクドライブ
  本機には光ディスクドライブが搭載されていません。使用するメディアに応じた外付け光ディスクドライブを本機に接続してください。
- Windows XPリカバリCD
  Windows XPが収録されているCD-ROMです。
- ドライバCD
  本体ドライバやソフトウェアが収録されているCD-ROMです。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。
★印が付いたソフトウェアは必ずインストールを行ってください。
購入時のインストール状態は、p.16 「添付されているソフトウェア」で確認してください。

Windows ★
p.126 「Windows XPのインストール」

本体ドライバ ★
p.131 「本体ドライバのインストール」

Adobe Reader ★
p.132 「Adobe Readerのインストール」

セキュリティソフトウェア ★
p.133 「セキュリティソフトウェアのインストール」

Webフィルタリングソフトウェア
p.133 「Webフィルタリングソフトウェアのインストール」

JWord Plugin
p.135 「JWord Pluginのインストール」

gooスティック

 p.135 「gooスティックのインストール」

⬇

マカフィー Site Advisor Plus 30日版

 p.136 「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール」

⬇

そのほかのインストール

 p.137 「そのほかのインストール」

⬇

再インストール後の作業

p.137 「再インストール後の作業」

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点を確認してください。

インストール全般

インストール作業は、ACアダプタを接続して行ってください。

コンピュータの管理者（Administrator）権限でログオン

インストール作業は、「コンピュータの管理者」権限（または同等の権限を持つユーザーアカウント）でログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールでパーティションをフォーマットする際は、必ずNTFSファイルシステムを使用してください。

ドライブ名

本章では、HDDをCドライブとして説明します。

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

p.127 「バックアップを取る」

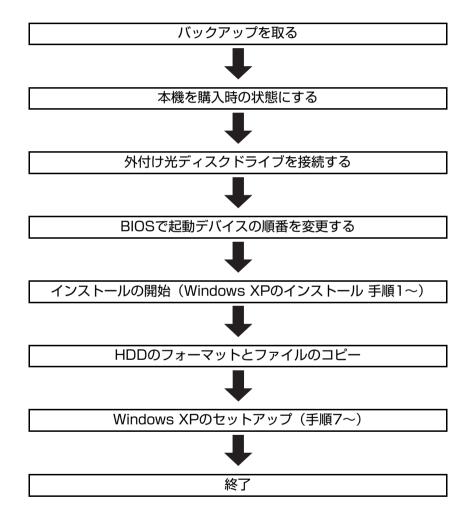
初期設定ツール

購入後のWindowsセットアップ時に使用した初期設定ツールは、Windowsを再インストールすると消去されます。

初期設定ツールでインストールした「セキュリティソフトウェア」などのソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

Windows XPのインストール

インストールの流れ

Windows XPインストール作業の主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、p.127「Windows XPをインストールする」以降の手順に従って行ってください。

▶Windows XPをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消去されます。
必要に応じてバックアップを行ってください。

- ネットワークの設定
  接続に関する設定を書き写しておいてください。
- Internet Explorerの「お気に入り」、Outlook Expressの「アドレス帳」「メールデータ」
  p.167 「データのバックアップ」
  このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- 重要なデータ
  ほかのメディアなどにコピーしておいてください。

コンピュータを購入時の状態にする

マウスなどの周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

外付け光ディスクドライブを接続する

インストールに使用するメディアに応じた外付け光ディスクドライブを、本機に接続してください。

BIOSで起動デバイスの順番を変更する

外付け光ディスクドライブを接続したら、次の手順に従って、BIOS Setupユーティリティで起動デバイスの順番を変更します。

1 **「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**

p.104 「BIOS Setupユーティリティの起動」

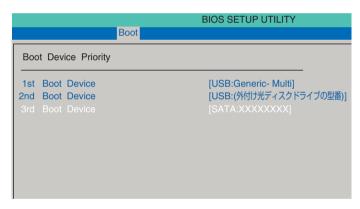
2 **「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択して［↵］を押します。**

3 **外付け光ディスクドライブの順番をHDDよりも前に設定します。**

ここでは、外付け光ディスクドライブを2番目に、HDDを3番目に設定する手順を説明します。

(1) [↑] [↓] で「2nd Boot Device」(2番目)を選択し、[↵] を押します。
(2) 「選択」ウィンドウが表示されたら、[↑] [↓] で「USB：(外付け光ディスクドライブの型番)」を選択し、[↵] を押します。

＜選択ウィンドウ画面＞

「2nd Boot Device」(2番目) が外付け光ディスクドライブに設定され、自動的に「3rd Boot Device」(3番目) がHDDに設定されます。

4 **[F10] を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。**

p.108 「BIOS Setupユーティリティの終了」

5 **再度「BIOS Setupユーティリティ」を起動し、「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」の表示が次の順番になっていることを確認します。**

- 1st Boot Device ［USB：Generic- Multi］
- 2nd Boot Device ［USB：(外付け光ディスクドライブの型番)］
- 3rd Boot Device ［SATA：XXXXXXXX］

6 **[F10] を押してBIOSを終了します。**

これで、起動デバイスの順番変更は完了です。

Windows XPのインストール

Windows XPのインストール方法は、次のとおりです。

1 **Windowsが起動した状態で「Windows XPリカバリCD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**

「実行する操作の選択」画面が表示されたら、画面左下の[終了]をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。

2 **[スタート]－[終了オプション]－[再起動]をクリックし、コンピュータを再起動します。**

3 **「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。**

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。
手順4の画面が表示されるまでしばらく時間がかかります。

4 **「次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。・・・」と表示されたら、Cドライブが選択されていることを確認し、↵ を押します。**

5 **「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択し、↵ を押します。**

「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択すると、Cドライブに Windowsが追加登録されてしまいます（Windowsが複数になります）ので注意してください。

6 **「警告：このドライブをフォーマットすると・・・」と表示されたら、F を押します。**

フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。

7 **「ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するかしないかを選択し、[次へ]をクリックします。**

「同意しません」を選択すると、Windows XPのインストールが中止されます。

8 **「ソフトウェアの個人用設定」と表示されたら、「名前」と「組織名」を入力し、[次へ]をクリックします。**

「名前」は必ず入力してください。

9 「コンピュータ名は何ですか？」と表示されたら、必要な項目を入力し、［次へ］をクリックします。

「このコンピュータの名前」には、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

<ネットワークに接続する場合>

ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を入力します。

<ネットワークに接続しない場合>

セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。

10 「日付と時刻の設定」と表示されたら、表示内容を確認し、［次へ］をクリックします。

本機設置場所の日付と時刻の設定を行います。

11 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、［OK］をクリックします。

12 「モニタの設定」画面が表示されたら、［OK］をクリックします。

13 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の⇨（次へ）をクリックします。

14 「コンピュータを保護してください」と表示されたら、自動更新を有効にするかどうかを選択し、画面右下の⇨（次へ）をクリックします。

インターネットに接続している環境の場合は、自動更新を有効にすることをおすすめします。

15 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力し、画面右下の⇨（次へ）をクリックします。

ユーザー名を少なくとも1つ入力してください。

16 「設定が完了しました」と表示されたら、画面右下の⇨（完了）をクリックします。

17 Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、「Windows XPリカバリCD」を取り出します。

これでWindows XPのインストールは完了です。

本体ドライバのインストール

本機のドライバ類を、一括してインストールします。
インストールされるドライバ類は次のとおりです。

- チップセットドライバ
- インスタントキードライバ
- 無線LANドライバ
- タッチパッドドライバ
- インフォメーションメニュー
- システム診断ツール
- ネットワーク切替えツール
- ビデオドライバ
- インスタントキーユーティリティ
- サウンドドライバ
- ネットワークドライバ
- メモリカードドライバ
- Windows Media Player 11
- Microsoft .NET Framework
- Java 2 Runtime Environment

インストール

インストールの手順は次のとおりです。

1. **「ドライバCD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**
   正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
   表示されない場合は、[スタート] ー「マイコンピュータ」ー「EPSON_CD」をダブルクリックします。
2. **表示された項目から [インストール] をクリックします。**
3. **「インストール確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり [OK] をクリックします。**
   各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには、十数分かかります。
4. **「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。**
5. **「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認して [PC再起動] をクリックします。**
   Windowsが再起動したら、本体ドライバのインストールは完了です。

Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

1 「ドライバCD」を外付け光ディスクドライブにセットします。

正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] ─「マイコンピュータ」─「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 表示された項目から「Adobe Reader」をクリックします。

3 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。

4 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール] をクリックします。

インストールにはしばらく時間がかかります。

5 「セットアップ完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

続いてAdobe Readerのセットアップを行います。

セットアップ

インストールが完了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Readerのセットアップ手順は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。

2 「Adobe Reader使用許諾契約書」画面が表示されたら、「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。

同意する場合は、[同意する] をクリックします。[同意しない] を選択すると、Adobe Readerは使用できません。

これで、Adobe Readerのセットアップは完了です。

セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。当社ユーザーサポートページからダウンロードした『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（PDF）をご覧ください。

p.169「電子マニュアルのダウンロード」

市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

Webフィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「i－フィルター 30日版」をインストールします。i－フィルター 30日版は、有害サイトをブロックするためのWebフィルタリングソフトウェアです。
市販のWebフィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

i－フィルター 30日版のインストール

i－フィルター 30日版のインストール方法は、次のとおりです。

1. **「ドライバCD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**
   正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
   表示されない場合は、［スタート］－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。
2. **表示された項目から「i－フィルター 30日版」をクリックします。**
3. **「i－フィルター･･･インストール」と表示されたら、［次へ］をクリックします。**
4. **「使用許諾契約」と表示されたら、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して、［次へ］をクリックします。**
5. **「セットアップタイプ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。**
6. **「インストール準備の完了」と表示されたら、［インストール］をクリックします。**
   デスクトップ上に「i－フィルター」アイコンが表示されたら、i－フィルター 30日版のインストールは完了です。
   続いて、i－フィルター 30日版のユーザー登録を行います。

i－フィルター 30日版のユーザー登録

i－フィルター 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。
ユーザー登録はインターネット接続後に行います。
ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「i－フィルター」アイコンをダブルクリックします。

Windowsを再起動した場合は、「i－フィルター・・・」画面が自動的に表示されます。

2 「i －フィルター･･･」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、［「i－フィルター」を使ってみる］をクリックします。

3 「「i－フィルター」の開始」と表示されたら、次の作業を行います。

＜初回ユーザー登録時＞

(1) ［次へ］をクリックします。
(2) 「無料お試し版ダウンロード　お申し込み」と表示されたら、「お申し込みの入力」で「E-Mailアドレス」と「お名前」、「管理パスワードの設定」で「管理パスワード」と「管理パスワード［確認入力］」を入力します。
「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。
(3) 「情報メール配信設定」で情報メールの配信を希望するかしないかを選択します。
(4) ［同意して確認画面へ］をクリックします。
(5) 「お申し込み内容の確認」と表示されたら、内容を確認し、［登録する］をクリックします。
(6) 「お客様情報登録完了」と表示されたら、「登録内容」に記載されている「シリアルID」と「利用期限」を確認しておきます。
同時に、登録したE-Mailアドレスにも「シリアルID」と「利用期限」が記載された登録完了メールが配信されます。
一度登録を行うと、同じE-Mailアドレスでの再登録はできません。i－フィルター 30日版の再インストール後など、2回目以降のユーザー登録では、登録完了メールに記載されている「シリアルID」を使用します。
「シリアルID」は必ず書き写すなどして控えておいてください。
(7) ［完了］をクリックします。

＜2回目以降のユーザー登録時＞

(1) ［シリアルIDを持っているお客さま］をクリックします。
(2) 「シリアルIDのご確認」で、初回セットアップ時に配信された「シリアルID」を入力します。
(3) 「管理パスワードの設定」で「管理パスワード」と「管理パスワード［確認入力］」を入力します。
「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。
(4) ［次へ］をクリックします。
(5) 「シリアルIDを確認しました」と表示されたら、［完了］をクリックします。

これで、i－フィルター 30日版のユーザー登録は完了です。

▶JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。
JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

1 **「ドライバCD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**
正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、［スタート］－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 **表示された項目から「JWord Plugin」をクリックします。**

3 **「JWordプラグイン…へようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

▶gooスティックのインストール

「gooスティック」は、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。
gooスティックのインストール手順は次のとおりです。

1 **「ドライバCD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**
正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、［スタート］－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 **表示された項目から「gooスティック」をクリックします。**

3 **「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。**
これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」は、Webサイトの安全性を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツールです。

インストール

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール手順は次のとおりです。

1 「ドライバCD」を外付け光ディスクドライブにセットします。

正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] ―「マイコンピュータ」―「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 表示された項目から「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」をクリックします。

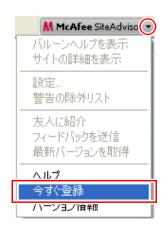
3 「McAfee SecurityCenter」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

インストールが完了したら、続いてユーザー登録を行います。

ユーザー登録

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。
ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

1 Internet Explorerを起動します。

2 Internet Explorerのツールバーに表示される [McAfee SiteAdvisor] の▼をクリックして、表示された一覧から「今すぐ登録」をクリックします。

3 表示された画面に従ってユーザー登録を行います。

ユーザー登録が完了すると、マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版が使用可能になります。

▶そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

各種ドライバのインストール

お使いになる機器によっては、ドライバやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要な場合があります。インストールは、機器類に添付のメディアを使用します。詳しくは、お使いになる機器類に添付のマニュアルをご覧ください。

インストールが必要なドライバの例

お使いになる機器によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　　：プリンタに添付のドライバ

そのほかのソフトウェアのインストール

「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

ネットワークの設定

ネットワーク（有線LAN）や無線LANを使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。

p.65 「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.69 「無線LANを使う」

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

p.167 「データのバックアップ」

- **Internet Explorer、Outlook Expressの設定の復元**
- **重要なデータ**

  バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

Windows Update

再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。
再インストール後にはじめてインターネットに接続する際は、必ず手動でWindows Updateを行ってください。

p.87「Windows Update」

第4章 こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら

本機をご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法を確認してください。

● 困ったときに

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

 p.141 「困ったときに」

● とらぶる解決ナビ

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。

「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリックします。

トラブルが起きた場合の対処の流れを確認します。

起こったトラブルに関する項目をクリックします。
トラブルの詳細が表示されたら、詳細項目をクリックし、対処方法を確認します。

サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』（別冊）には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。
困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。

不具合が解消しない場合は

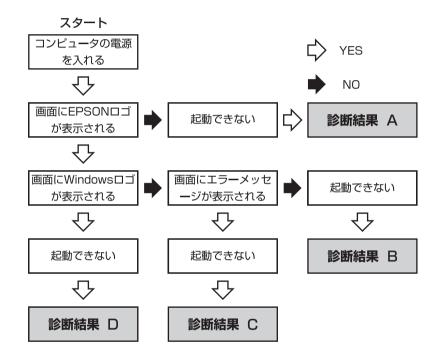
対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

不具合一覧

▶コンピュータ本体の不具合（起動時）

コンピュータが起動できないときの対処方法を説明します。

起動時の不具合

コンピュータが起動できない場合は、次の診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってみてください。

診断結果　A

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 外付けディスプレイの電源を入れる

外付けディスプレイを接続している場合は、外付けディスプレイの電源を入れ、画面が表示されるか確認してください。

(2) コンピュータへの電源供給を確認する

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。本機の電源を切ってから、コンピュータとACアダプタ、電源コードを接続しなおし、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
バッテリパックのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続して使用してください。

(3) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(4) 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器/増設機器類（マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

診断結果　B

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.161 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

p.161 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示されたら、すぐに[F5]を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
3. 「Windows拡張オプションメニュー」と表示されたら、[↑]または[↓]を押して「前回正常起動時の構成」を選択し、[↵]を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して[↵]を押します。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.109 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.121 「ソフトウェアの再インストール」

診断結果　C

まず、p.163 「警告メッセージ/警告音」をご覧になり、メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、下記をご覧になり、対処を行ってください。

●「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(1) カスタマーサービスセンターへ連絡する

HDDに問題がある可能性が考えられます。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

●「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」、「Reboot and Select proper Boot device･･･」などのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) USB機器を取り外す

USB FDDや外付け光ディスクドライブなどのUSB機器にメディアがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDや光ディスクメディア、USB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDDや光ディスクドライブなどのUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をFDDや光ディスクドライブなどのUSB機器よりも前に設定しておくことで、USB 機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

p.113 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

(2) しばらく放置する

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露してしまっている可能性があります。乾くまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れてみてください。

(3) HDDの認識と接続を確認する

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. BIOS Setupユーティリティを起動します。

p.104 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Advanced」メニュー画面－「IDE Configuration」－「Primary IDE Master」の表示を確認します。

表示が［Hard Disk］の場合、HDDは正常な状態です。続いて、下記（4）（5）の作業を行ってみてください。

「Not Detected」、「None」などと表示される場合は、HDDが正常に認識されていません。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.109 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.121 「ソフトウェアの再インストール」

● そのほかのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) USB機器を取り外す

USB FDDや外付け光ディスクドライブなどのUSB機器にメディアがセットされていたり、USB接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDや光ディスクメディア、USB機器からOSを読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDDや光ディスクドライブなどのUSB機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をFDDや光ディスクドライブなどのUSB機器よりも前に設定しておくことで、USB機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

p.113 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

(2) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(3) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.109 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(4) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.121 「ソフトウェアの再インストール」

診断結果　D

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.161 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] －「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. 「ファイル名を指定して実行」画面が表示されたら、「名前」に「msconfig」と入力して、[OK] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動する必要があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
5. Windows起動時に、「開始方法を変更しました」というメッセージが表示されたら、「このメッセージを表示しない」にチェックを入れて、[OK] をクリックします。

   常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

常駐ソフトが原因でなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

p.161 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示されたら、すぐに［F5］を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
3. 「Windows 拡張オプションメニュー」と表示されたら、［↑］または［↓］を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、［↵］を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して、［↵］を押します。

(4) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.121 「ソフトウェアの再インストール」

起動時の不具合（そのほか）

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

```
Enter Password:
```

```
Hard Drive locked, enter password:
```

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」の「Security」メニュー画面でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。
  p.104 「BIOS Setupユーティリティの操作」
  p.118 「Securityメニュー画面」

- パスワードを正しく入力しているか確認してください。NumLkの状態により一部のキーが数値キーとして働きます。
  p.39 「キーボードを使う」

- パスワードを忘れてしまった場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に、Windowsを選択する画面が表示される（Windowsが2つになってしまっている）。

確認と対処

- Windowsの再インストールの際に手順を間違ったと考えられます。
  再度、手順どおりにWindowsの再インストールを行ってください。
  ポイントとなる手順は、次のとおりです。
  - p.129「Windows XPのインストール」の手順5では必ず「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択する。

コンピュータ本体の不具合

コンピュータ本体の不具合と対処方法を説明します。

省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- バッテリ残量が少なくなり、本機が省電力状態に移行した場合は、AC アダプタを接続してから復帰させてみてください。
- 省電力状態から復帰できない場合は、Ctrl+Alt+Delete を押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。
- 省電力状態でメモリカードやUSB機器などを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl+Alt+Delete を押して、本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

バッテリパック使用時の不具合

現象

充電されない。

確認と対処

- バッテリパックが正しく装着されているか確認してください。
- 充電時にバッテリ充電ランプが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているか確認してください。ほかの電気製品を電源コンセントに接続してください。

現象

充電中に充電ランプが点灯しても、正しく充電されていない、または、充電後にバッテリ充電ランプが消灯しても、バッテリが充電されていない。

確認と対処

- 10℃以下の低温環境で充電した場合、正しく充電されていない可能性があります。この場合は、10℃以上の暖かい環境でバッテリとACアダプタを接続しなおし、再度、充電してみてください。
  不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

現象

すぐにバッテリが終わってしまう。バッテリでの使用可能時間が短い。

確認と対処

- バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお、使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。
  p.32 「バッテリの交換」
  p.35 「使用済みバッテリの取り扱い」

そのほかの不具合

現象

ハングアップしてしまい、何も反応しない。

確認と対処

- 応答のないソフトウェアをタスクマネージャで終了させます。
  ソフトウェアを終了させることができない場合には、5秒以上電源スイッチを押して電源を切ってください。
  p.21 「ハングアップしたときは」

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本機内部のリチウム電池の残量が少なくなり、BIOSのデータを保持できなくなっている可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

▶記憶装置の不具合

記憶装置の不具合と対処方法を説明します。

HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、少なく表示される。

確認と対処

● 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、少なく表示されます。
これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」（0と1の2つの数字を用いる表記法）を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」（0～9の数字を用いる表記法）を使用していることによる違いです。
2進法で表記した1KB（キロバイト）は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

● BIOSの「Boot」メニュー画面で起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。
p.104 「BIOS Setupユーティリティの操作」
p.117 「Bootメニュー画面」

メモリカードの不具合

現象

メモリカードを装着しても使用できない。

確認と対処

● 本機で使用可能なメモリカードかどうか、メモリカードがスロットの仕様に対応しているか確認してください。
p.47 「本機で使用できるメモリカード」

● メモリカードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。
p.49 「メモリカードのセットと取り外し」

入力装置の不具合

入力装置の不具合と対処方法を説明します。

キーボードの不具合

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。
- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、「タスクマネージャ」でソフトウェアを終了してください。
p.21 「ハングアップしたときは」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。日本語入力モードに切り替えてください。
p.40 「文字を入力するには」

現象

Ctrl と Fn 、右側の Alt が動作しない。

確認と対処

- キーの機能を変更している可能性があります。

＜Ctrl と Fn が機能しない場合＞

BIOSの設定で、「Advanced」メニュー画面の「Exchange L-Ctrl & Fn key」が「Enabled」になっていないか確認してください。

＜右側の Alt が機能しない場合＞

BIOSの設定で、「Advanced」メニュー画面の「Exchange R-Alt & Win App key」が「Enabled」になっていないか確認してください。

p.43 「入力キーの機能変更」
p.104 「BIOS Setupユーティリティの操作」
p.116 「Advancedメニュー画面」

タッチパッドの不具合

現象

ポインタの動きが悪い。

確認と対処

- 手がぬれていたり、湿気を帯びていたりしていると、動きが悪くなります。
- LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れなおしてください。
- タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。

現象

ポインタが動かない。

確認と対処

- タッチパッドがOFFになっていないか確認してください。Fn＋F9（⊟/x）を押してみてください。
  p.37 「タッチパッド機能をOFFにする」
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。
- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、「タスクマネージャ」でソフトウェアを終了してください。
  p.21 「ハングアップしたときは」

▶表示装置の不具合

表示装置の不具合と対処方法を説明します。

LCDユニットの不具合

現象

LCD画面に何も表示されない。

確認と対処

- 外付けディスプレイを接続している場合は、外付けディスプレイの電源を入れ、画面が表示されるか確認してください。

- 画面の明るさを調節してください。Fn+F5（✹）/Fn+F6（☼）で調節できます。
  p.52 「LCDユニットの調整」

- バックライトが消灯していないか確認してください。Fn+F7（LCD/×）を押してみてください。
  p.52 「バックライトの消灯」

- 省電力状態になっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。
  p.99 「省電力状態から復帰する」

- バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してそのまま放置すると、スタンバイに移行します（購入時の設定）。ACアダプタを接続してから復帰してください。

- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

- 警告音（ビープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。警告音（ビープ音）の回数をメモして、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
  p.163 「警告メッセージ/警告音」

現象

画面がちらつく。

確認と対処

● LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認して、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
p.104 「BIOS Setupユーティリティの操作」

▶サウンドの不具合

サウンドの不具合と対処方法を説明します。

内蔵ステレオスピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのに音が鳴らない。

確認と対処

● 内蔵ステレオスピーカの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
p.62 「音量の調節」

▶ソフトウェアの不具合

ソフトウェアの不具合と対処方法を説明します。

ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

● 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。

● ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、またはそのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムが停止（ハングアップ）する場合があります。

- 応答のないプログラムを強制終了してから、コンピュータを再起動してください。

p.21「ハングアップしたときは」

現象

ソフトウェアやプログラムが停止し、「データ実行防止」画面が表示された。

確認と対処

- セキュリティソフトウェアで、ウイルスの検索・駆除を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になりテクニカルセンターまでお問い合わせください。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース（メモリ容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。外付け光ディスクドライブなどのUSB機器から起動しようとしている場合は、ドライブやディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。

- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

Internet Explorerの使用時に「警告」（情報バー）画面が表示される。

確認と対処

- 購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」（情報バー）画面が表示されたら、［OK］をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

Outlook ExpressでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処

- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。
  HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。
  添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。
  Outlook Expressの［ツール］－「オプション」－「セキュリティ」タブ－「ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

- ファイアウォールが有効に設定されていると、ネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。
  詳細についてはソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

インストール時の不具合

現象

Windowsの再インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

- 本書のインストール手順は、HDDのフォーマット後に行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows XPリカバリCDを外付け光ディスクドライブにセットして再起動しても、「Press any key to boot from CD.」と表示されない。

確認と対処

- 外付け光ディスクドライブの起動の順番をHDDよりも後ろに設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、起動デバイスの順番を変更してください。
p.127 「BIOSで起動デバイスの順番を変更する」

▶ネットワーク、インターネットの不具合

ネットワーク（有線LAN、無線LAN）、インターネットの不具合と対処方法は、「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。

システム診断ツールを使う

システム診断ツールを使うと、本機の調子が悪いときに、どのハードウェアが不具合の原因かを診断することができます。

システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2つの種類があります。

● Windows上で起動するシステム診断ツール

Windows上でシステム診断を行うことができます。Windowsを起動できる場合に使用します。
購入時は、本機にあらかじめインストールされています。

● CDから起動するシステム診断ツール

Windowsが起動できない場合に、外付け光ディスクドライブを接続し、「ドライバCD」からツールを起動してシステム診断を行います。
本機の廃棄時にHDD内のデータを消去することもできます。
p.171 「コンピュータを廃棄するときは」

システム診断を実行する

本機の調子が悪いときに、システム診断をして原因を確認します。Windowsを起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。

Windowsを起動できる場合

Windows上でシステム診断を行います。
実行方法は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「システム診断ツール」アイコンをダブルクリックします。

<システム診断ツールアイコン>

2 「システム診断ツール」画面が表示されたら、診断したい項目名をクリックします。

該当項目の診断が開始します。
［診断項目を選択する］を選択した場合は、診断項目を選ぶことができます。
実行方法の詳細は、システム診断ツールのヘルプをご覧ください。

3 診断が終了したら、診断結果を確認します。

「異常が検出されました」の画面が表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。画面の内容を確認してください。
問題が解決されない場合は、ヘルプまたは『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

Windowsを起動できない場合

「ドライバCD」からシステム診断ツールを起動します。
実行方法は、次のとおりです。

1 **本機の電源を入れ、ドライバCDを外付け光ディスクドライブにセットします。**

2 **Ctrl＋Alt＋Deleteを押します。**

コンピュータが再起動します。

3 **黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・・ Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。**

システム診断ツールが起動し、自動的に診断を開始します。

4 **診断が終了したら、診断結果を確認します。**

「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

5 **光ディスクドライブからドライバCDを取り出し、電源を切ります。**

これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここでは、トラブルが発生した場合に役立つWindowsの機能について説明します。

セーフモードでの起動

コンピュータが起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 **本機の電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。**

2 **EPSONと表示されたら、すぐに F5 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**

3 **「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、↵ を押します。**

4 **「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して ↵ を押します。**
セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

システムの復元

本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってWindowsを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。
復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

1 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。**

2 **「システムの復元」が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」を選択し、［次へ］をクリックします。**

3 「復元ポイントの選択」と表示されたら、復元ポイントを選択します。

復元ポイントのある日が、カレンダーに太字で表示されます。まず日付を選択し、次に画面右側の復元ポイントの一覧から復元ポイントを選択して、［次へ］をクリックします。

4 「復元ポイントの選択の確認」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

Windowsが再起動します。

5 再起動後、「復元は完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。

これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。

2 「システムの復元」画面が表示されたら、「復元ポイントの作成」を選択し、［次へ］をクリックします。

3 「復元ポイントの作成」と表示されたら、「復元ポイントの説明」に説明を入力し、［作成］をクリックします。

4 「新しい復元ポイント」と表示されたら、［閉じる］をクリックします。

これで復元ポイントの作成は完了です。

警告メッセージ/警告音

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に以下の警告メッセージが表示されたり、警告音（ビープ音）が鳴ったりした場合は、以下の各対処を行ってください。処置を行ってもなおらない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になりテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ

メッセージ	説明と対処方法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	● ブートデバイスにシステムがない場合は、「BIOS Setupユーティリティ」－「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で、システムの入ったデバイスを割り付けてください。 ● ブートデバイスにメディアが挿入されていない場合は、システムの入ったメディアをブートデバイスに挿入してください。
CMOS Battery Low	バックアップ用電池の容量が不足して、CMOS RAMの内容を保持できません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
CMOS Checksum Bad	CMOSの設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティを起動して、「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択してください。
CMOS Date/Time Not Set	日付と時間の設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティを起動し、日付と時刻の設定をなおしてから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してください。

警告音（ビープ音）

警告音の回数	警告の内容	説明と対処方法
1	Memory refresh timer error	メモリリフレッシュが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
3	Main memory read/write test error	メモリの読み込み、書き込みが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、取り付けなおしてください。
6	Keyboard controller BAT test error	キーボードが正しく機能していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
7	General exception error	メモリ、キーボード以外のシステムが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
8	Display memory error	ビデオメモリが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。

付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。

お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装

コンピュータ本体の外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

- 本機をたたいたり、硬いものでこすったりしないでください。変形やキズ、破損の原因となります。
- ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

Cドライブ内の「マイ ドキュメント」やInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」と「とらぶる解決ナビ」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「安全に安心して使おう！」項目の「バックアップ」

<画面の内容は予告なく変更される場合があります>

「とらぶる解決ナビ」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

1 **「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」－「よくある質問」項目の「こちら」をクリックします。**

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

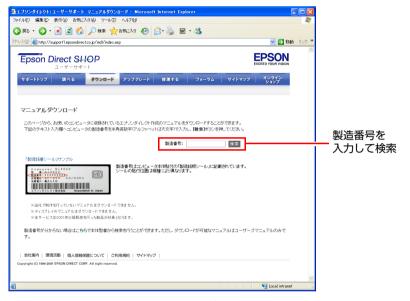
2 **「よくある質問」が表示されます。**

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF）をダウンロードすることができます。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」－「マニュアル」

<画面の内容は予告なく変更する場合があります>

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- お問い合わせ情報
- 壁紙

リチウム電池の交換

BIOS Setupユーティリティで設定した情報は、本機内部のリチウム電池によって保持されています。
リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタやバッテリからの電源供給がまったくない場合､本機のリチウム電池の寿命は約5年です。
日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

コンピュータを廃棄するときは

本機を廃棄するときには『サポート・サービスのご案内』（別冊）の「コンピュータの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

▶HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。
「ドライバCD」から起動するシステム診断ツールには、HDD内のデータをすべて消去する機能が備わっています。
消去を開始すると、HDDのデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。

データ消去の結果について、当社および開発元のUltra-X社は責任を負いません。
HDDのデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

1. **本機の電源を入れ、ドライバCDを外付け光ディスクドライブにセットします。**
   「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、☒をクリックして画面を閉じてください。
2. **［スタート］－［終了オプション］－［再起動］をクリックして、本機を再起動します。**
3. **黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えたあと、「Kernel Loading・・・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。**
   システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
4. **Ctrl＋C を押して診断を中止したあと、どれかキーを押します。**
5. **選択項目画面が表示されたら、↓で「HD Erase」を選択して↵を押します。**
6. **選択項目画面が表示されたら、↓で「Full　Erase」を選択して↵を押します。**
7. **選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して↵を押します。**
   「!!WARNING!!」画面が表示されます。
   消去が開始されると、途中で止めることはできません。
   消去を中止する場合は、Esc を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。

8　キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まります。

消去には、約60分かかります。

9　「Erase of HD0 :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、ドライバCDを光ディスクドライブから取り出して、本機の電源を切ります。

これで、データの消去は完了です。

機能仕様一覧

型番		Na01 mini
CPU	プロセッサ	インテル Atom プロセッサ
チップセット		インテル 945GSE Express + ICH7M
BIOS		AMI BIOS
メインメモリ	メモリ	容量：1GB　PC2-5300（DDR2-667 SDRAM）
	スロット	SODIMMスロット（200ピン）×1
ビデオ機能	コントローラ	インテル 945GSE Express チップセット内蔵 GMA950 Embeded
	メモリ（メインメモリと共用）	メインメモリより 最大128MBを使用
	液晶タイプ、液晶表示解像度（最大）	10.2型 WSVGAカラー液晶：1024×600　True Color 32ビット（約1,677万色）*1
	外部ディスプレイ表示解像度（最大）*2	1600×1200 1920×1200（ワイドディスプレイ接続時のみ） True Color 32ビット（約1,677万色）
HDD		容量：160GB　シリアルATA対応 2.5型HDD
サウンド機能		インテル ハイ・デフィニション・オーディオ対応Realtek製ALC269コントローラ ステレオスピーカ（出力1.5W×2）、モノラルマイク
ネットワーク機能		100Base-TX/10Base-T対応　Realteck製RTL8102ELコントローラ
キーボード		日本語対応86キー
ポインティングデバイス		タッチパッド
インタフェース	USB	3（右側面×2、左側面×1）：USB2.0
	LAN	1：RJ-45
	サウンド	マイク入力×1、ヘッドフォン出力×1
	ディスプレイ	VGA ミニD-SUB 15ピン×1
メモリカードスロット*3		1：SDメモリーカード（SDHC対応）、マルチメディアカード、メモリースティック（PRO対応）に対応
外形寸法（幅×奥行×高さ）		266×185×39mm（突起部を除く）
質量		約1.28kg（バッテリ含む/基本構成時）
電源	ACアダプタ*4（ADP-36EH）	入力：AC100V～240V±10%（50/60Hz）、1A 出力：DC12V、3A、36W 質量：約213g（電源コード含む）
	バッテリ（黒：BT2202-B 白：BT2202-W）	容量：4400mAh リチウムイオン 7.4V 動作時間*5：約3.2時間
消費電力（AC側）		約44W（最大）/ 0.7W（スタンバイ時）/ 0.4W（電源OFF時）
動作環境		動作温度：10～35℃、動作湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）

*1 ビデオコントローラのディザリング機能により実現。
*2 本機搭載のビデオコントローラ出力解像度（実際の表示は接続するディスプレイの仕様による）。
*3 SDメモリーカード、メモリースティックの著作権保護機能、またメモリースティックおよびメモリースティックPROの高速転送、セキュリティ機能には非対応。
*4 標準添付の電源コードはAC100V用（日本仕様）。本製品は国内専用のため、海外での使用は保証対象外。
*5 動作時間はJEITA測定方法Ver1.0の測定値（システム構成や使用環境により異なる）。

無線LAN*[1]

● IEEE802.11b/g

準拠規格	IEEE802.11b/g ：ARIB STD-T66（小電力データ通信システム規格） 2.4GHz 無線LAN標準プロトコル
データ転送速度 （規格値）*[2]	802.11b ：11Mbps 802.11g ：54Mbps
伝送方式	DS-SS方式（IEEE802.11b） OFDM方式（IEEE802.11g）
伝送距離 （理論値）	11Mbps ：40m（IEEE802.11b） 54Mbps ：25m（IEEE802.11g） 屋内におけるアクセスポイントとの通信時*[3]
セキュリティ	128/64bit WEP、WPA、WPA2対応
認証	802.1x*[4]
使用無線 チャンネル	IEEE802.11b：1〜13ch IEEE802.11g：1〜13ch

*1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：RTL8187SE
認証番号 ：201WW08215042、201GZ08215043
*2 無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
*3 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。
*4 当社では、Windows Server 2003とのIEEE802.1x Radius Server（EAP-TLS対応認証サーバ）＋WPA（TKIP）の組み合わせによる認証において動作を確認しています。すべての環境下での動作を保証するものではありません。

索　引

O

P

S

T

U

V

W

あ

い

し

す

せ

そ

た

ち

つ

て

と

な

に

ね

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

む

め

も

ゆ

り

ろ

わ

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人　電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。
有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。
上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。
＊ LCD ユニットを最大輝度で常時使用した場合の寿命は、10000 時間です。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

パソコン回収について

当社では、不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。
PCリサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。
パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。
http://shop.epson.jp/pcrecycle/

著作権保護法

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。
テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。
また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Internet Explorer、Windows Mediaは米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、インテルAtomは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet SecurityはSymantec Corporationの登録商標です。
- McAfeeおよびマカフィーは、米国法人McAfee, Inc. またはその関連会社の米国またはその他の国における登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Memory Stick、マジックゲート、Memory Stickのロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- MultiMedia Card™は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標です。
- SDロゴは商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。